

45_H Kanuma
COUNTRY CLUB

開場10周年記念誌

鹿沼カントリー倶楽部





目 次

コース全景	2
45ホール レイアウト	4
黄金コース9ホール紹介	6
北コース18ホール紹介	8
南コース18ホール紹介	11
クラブハウス紹介	14
黄金コース開場式	16
10周年記念式典	18
10周年記念祝賀競技会	19
かぬまの名物「鹿沼屋台」	20
年間入場者数の推移	21
鮎田昇平キャプテンあいさつ	22
柳田誠二郎会長あいさつ	23
藤松正憲顧問あいさつ	24
大場武顧問あいさつ	25
福島充社長あいさつ	26
福島文雄副社長あいさつ	28
矢野前理事長の急逝を悼む	29
倶楽部年譜	30
回想10年(会員随想)	34
競技記録	46
アンケート	50
鹿沼コース今昔(4) 神社考 鈴木修	54
倶楽部だより	56
倶楽部理事・分科委員名簿	58
会社顧問・役員名簿	59
編集後記	60

満10歳 新たな出発

鹿沼72カントリークラブ

至東京

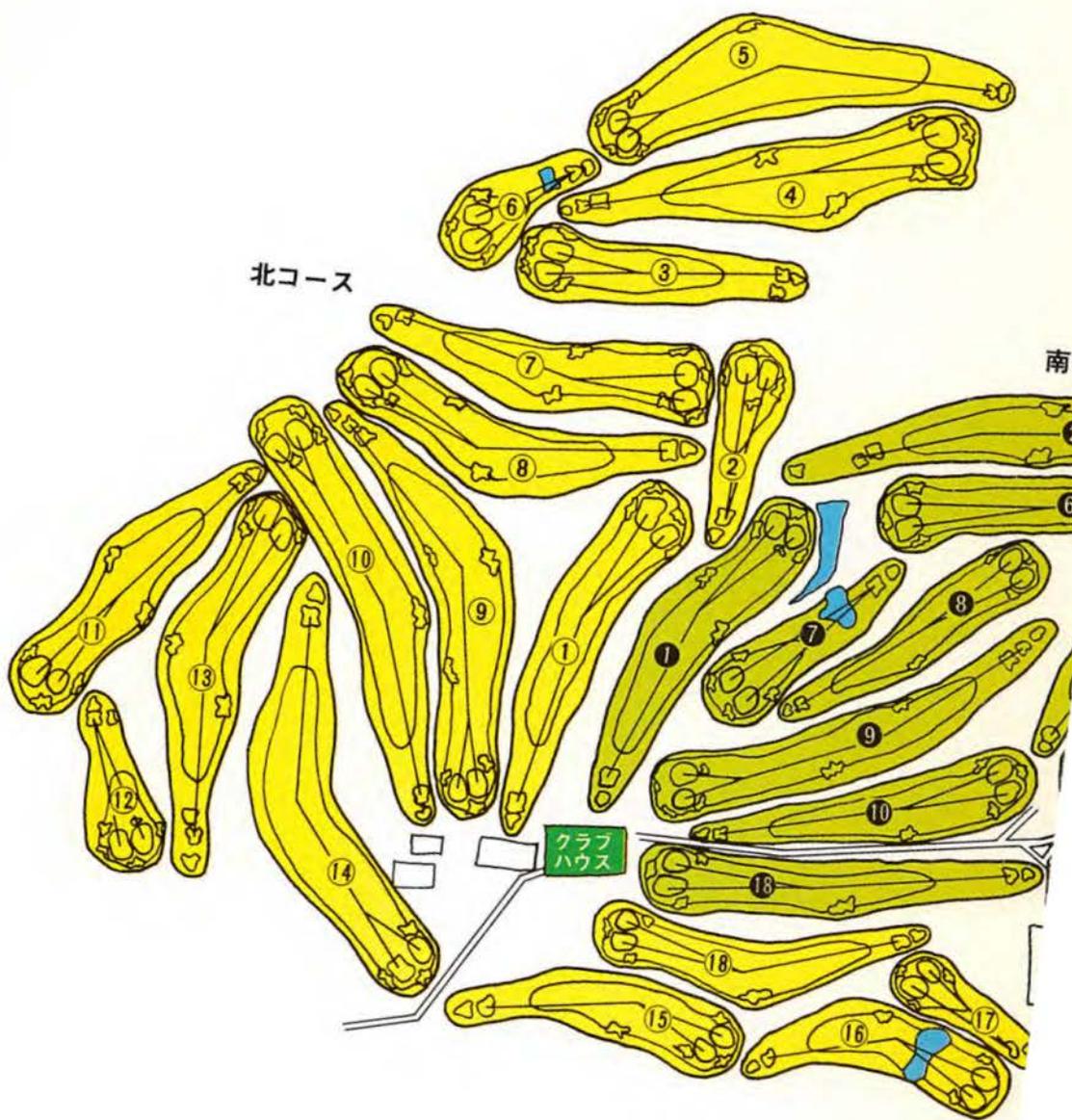
日光連山

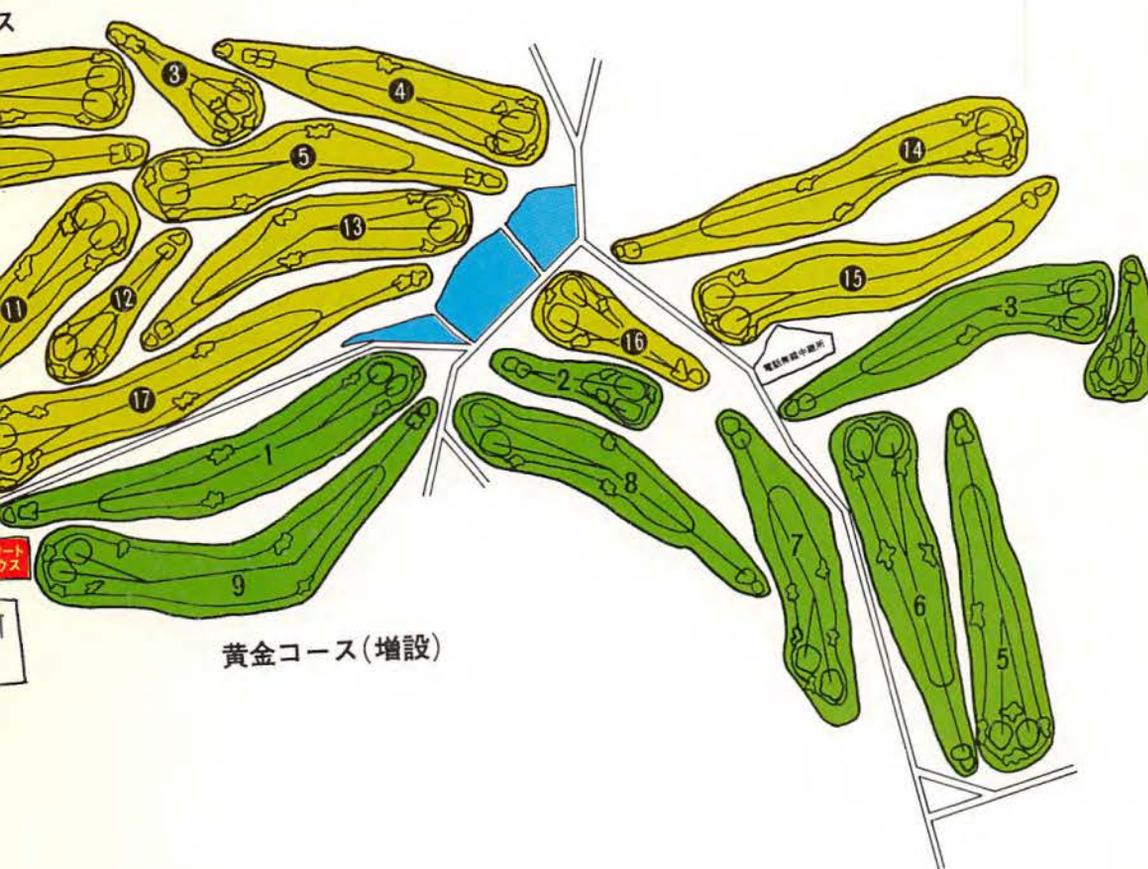
東北縦貫自動車道

至鹿沼インターチェンジ

鹿沼カントリー倶楽部45ホール全貌

戦略性ゆたかな45ホールズ





黄金コース(増設)

YARDAGE&PAR

北コース						南コース						黄金コース			
COMPETITION			COMPETITION			COMPETITION			COMPETITION			COMPETITION			
HOLE	YARDS	PAR	HOLE	YARDS	PAR	HOLE	YARDS	PAR	HOLE	YARDS	PAR	HOLE	YARDS	PAR	
Champ	Regu		Champ	Regu		Champ	Regu		Champ	Regu		Champ	Regu		
1	410	390	4	10	493	475	5	1	338	325	4	10	363	344	4
2	195	180	3	11	371	349	4	2	557	478	5	11	406	382	4
3	294	280	4	12	169	153	3	3	164	149	3	12	204	185	3
4	450	438	4	13	460	430	4	4	360	323	4	13	437	387	4
5	490	475	5	14	504	484	5	5	410	398	4	14	445	431	4
6	179	152	3	15	329	291	4	6	401	389	4	15	484	470	5
7	375	348	4	16	310	290	4	7	249	220	3	16	151	135	3
8	388	370	4	17	165	155	3	8	329	300	4	17	513	501	5
9	524	492	5	18	400	387	4	9	534	492	5	18	441	427	4
OUT	3305	3125	36	IN	3201	3014	36	OUT	3342	3074	36	IN	3444	3262	36

黄金コース 9ホール 3,201ヤード・パー36

49年10月10日にオープンした増設新コース。南コースに隣接し、鹿沼市と壬生町にまたがる34.7万㎡(約35町歩)の地にゆったりとレイアウトされている。

北コースに似たアンジュレーションがあり、フェアウェイ幅は平均80ヤードと広い。野鳥のさえずりが快い閑静なコースで、「黄金溜」という池があるところから黄金コースと名付けられた。4番グリーンから5番ティーグラウンドまでの歩行距離が若干長いが、これは県史蹟の大古墳があるため。新設されたスタートハウスでは麺類その他の軽食がとれる。
(黄金コース施工は(株)市川造園土木)



1番(旧南15番を改造)



2番



3番



4番



5番



6番

↓黄金コースより見た筑波山



7番



8番



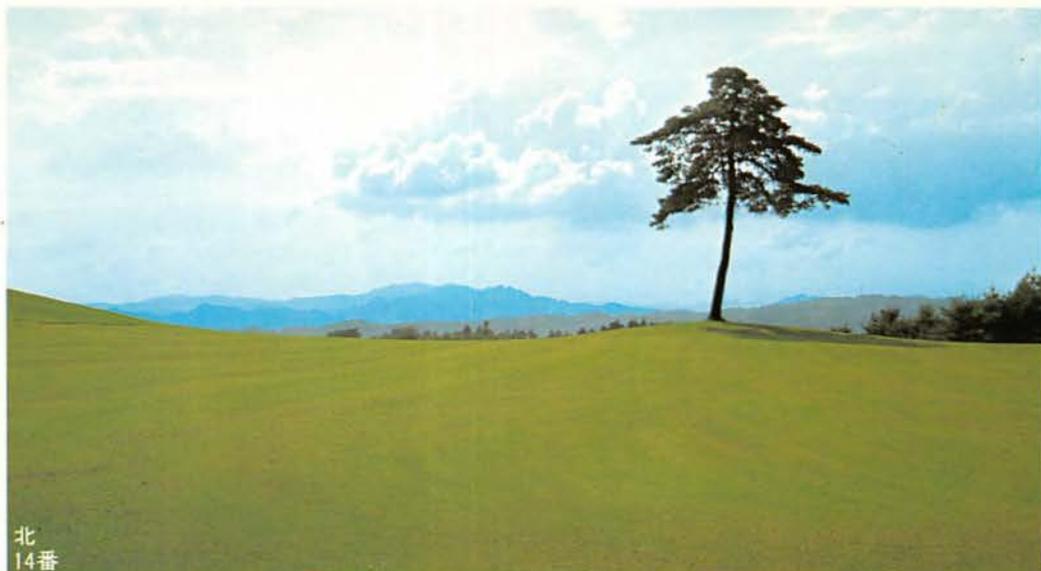
9番(旧南16番を改造)

北コース 18ホール 6,506ヤード・パー72

フラットでフェアウェイの広いゆったりとしたコース。どちらかといえばビギナー向きだが、巧妙なアンジュレーションが戦略性を高めている。春～夏の新緑、秋深まっでの紅葉の美しさは格別。







北
14番



15番 ●



16番



17番



18番

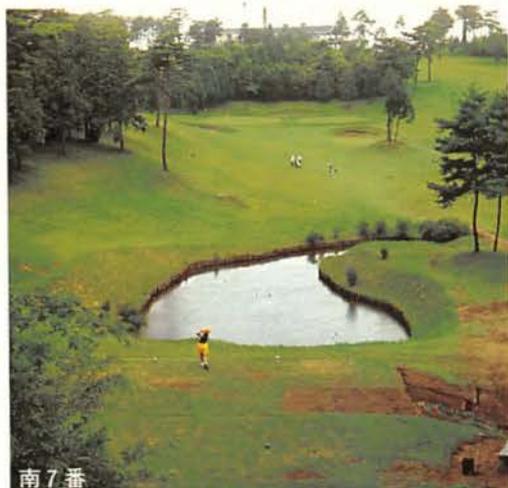
南コース 18ホール 6,782ヤード・パー72

豊富な樹木でセパレートされ、アップダウンの多い難しいホールも混じえたローハンデ向けのコース。

8番グリーンから望む雄大な日光連山は壮観だ。

なお、14、15、16番は新設コース、17番は旧14番にあたる。







13番



15番 (新設)



16番 (新設)



14番 (新設)



17番 (旧南14番)



18番グリーンとクラブハウス

クラブハウス増改築 完成



新設されたロイヤル・コンペティション・

ルーム(2階)



クラブハウス正面玄関

10周年にあたり、49年7月より進められていたクラブハウスの増築・改造が50年1月をもってほぼ完了した。工事は食堂・調理場の整備、カウンター、ロビー、ロッカー室、倉庫の改装、洗面所の改造、売店の移設、キャディ・マスター室、ロイヤル・コンペティション・ルームの新設と多岐にわたり、45Hコースにふさわしい充実した憩いの場に変身した。

完成時のクラブハウス総床面積は旧来より10%強増えて3,605m²(約1,089坪)。

施工は白石建設(株)。



フロント



ロビー



食堂



みやげもの売店



ゴルフ用品売店



浴室



ロッヂ



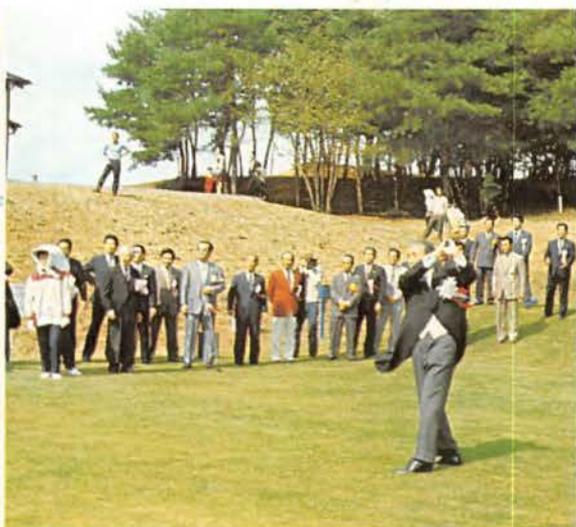
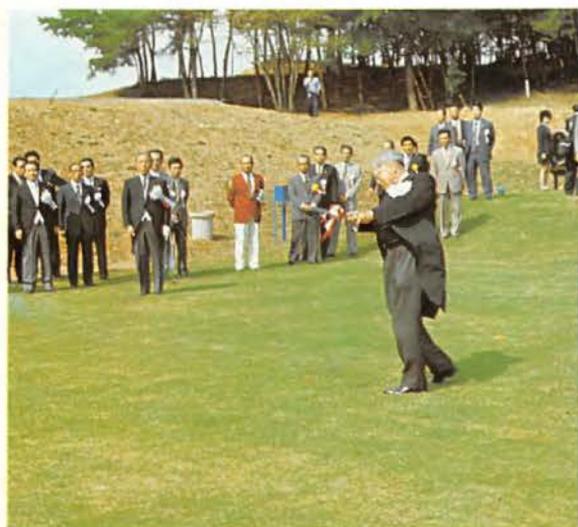
ロッカールーム

晴れやかに黄金コースオープン

49年10月10日

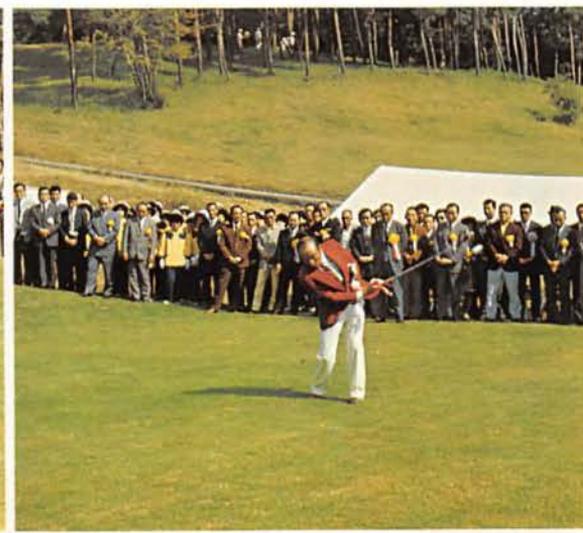
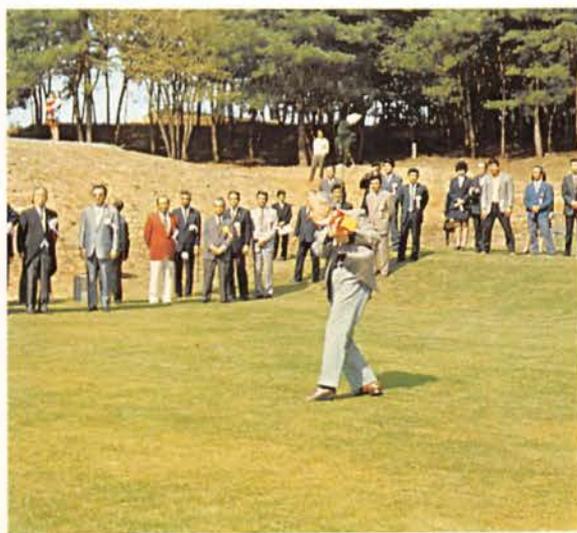


黄金コース開業のテープカット（左より柳田会長、福島充社長、福島文雄副社長）



始球式をする（左から柳田会長、福島社長、足利銀行鈴木専務、サリカ・カントリークラブ松田社長）

秋晴れの好天に恵まれた10月10日、体育の日。午前10時より、増設「黄金コース」の開場式が盛大にとりおこなわれた。鹿沼市長、栗野町長ほか来賓120余名の臨席をえて、神事以下とどこおりなく式は進み、花火を合図にテープをカット、いっせいに舞い上る風船の下で関係者が始球式を行い、めでたく式を終えた。



開場10周年記念式典

49年10月10日

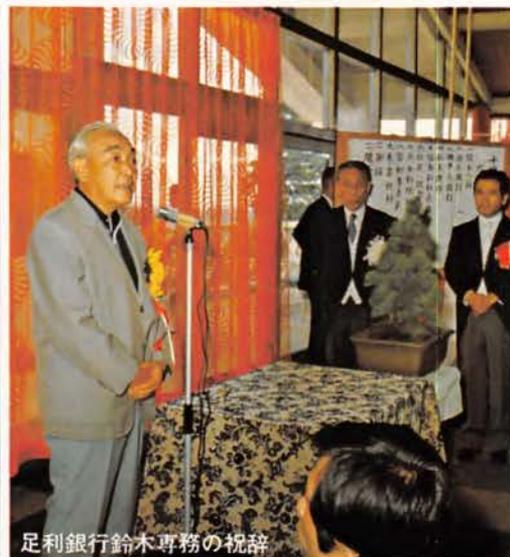
黄金コース開場式に引続き、クラブハウスで10周年記念式典が行われた。倶楽部のいっそうの充実を約する柳田会長、福島社長、福島副社長、鮎田キャプテンのあいさつのあと10年勤続者39名、5年勤続者5名のひとりひとりに福島社長より表彰状と記念品が贈られた。来賓の祝辞、祝宴のあと、希望者は黄金コースで見学を兼ねたコンペを楽しんだ。



10年勤続者表彰



下野新聞福島社長の祝辞



足利銀行鈴木専務の祝辞

記念祝賀競技会

49年10月12.13.14.15日
11月2.3.4日

当初、4日間の予定だった10周年記念祝賀競技会は、参加希望者多数のため、さらに3日間追加、上記の計7日間にわたって行なわれた。各日、南北各コースに分れてベリヤ方式で技を競い、それぞれ1～10位入賞者に豪華な賞品が贈られたほか、参加全員にネーム・プレートと記念品（ミニ鹿沼屋台）、60歳以上のメンバーには赤チョコッキが贈呈された。
(祝賀競技会の成績は48頁に掲載)



競技風景



記念競技優勝者への賞品



スコア集計



模擬店

かめまの名物

鹿沼屋台

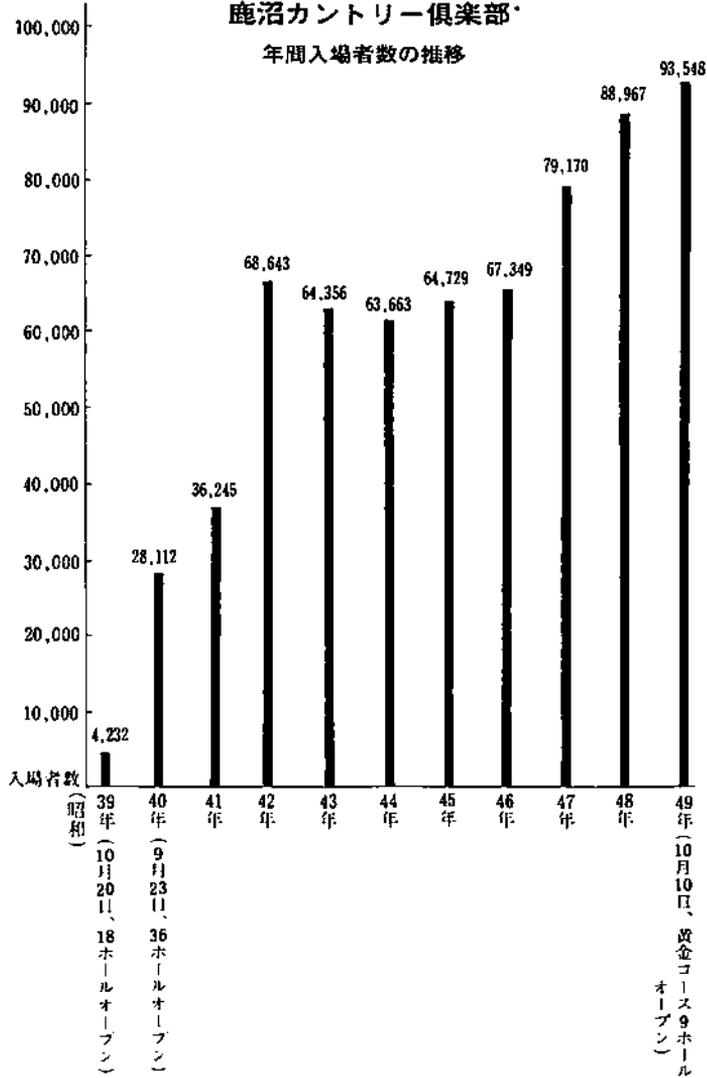


毎年10月9日、10日は、鹿沼市の今宮神社の大禮祭である。祭日に先立ち、伝統ある鹿沼屋台が市内の各町内で組み立てられる。そして若衆の手によって引き廻され、9日の夜には今宮神社境内に繰り込まれて出番を待つ。

そもそも、この鹿沼屋台は、1780年（江戸時代、安永年間）に、³踊り屋台、と称され、町内の能・狂言を競うひとつの動く舞台として誕生した。しかし、後の天保の改革（1841年）で能・狂言が排されたため、町民は能・狂言の代わりとして、彫刻・装飾や笛、太鼓のお囃子を競い合うようになった。毎年この日には、10万人以上の見物客が繰り出し、³ぶっつけ、といわれる屋台同士のお囃子合戦に大きな拍手を送る。

鹿沼カントリー倶楽部

年間入場者数の推移





日本一をめざして

鹿沼カントリー倶楽部
理事 長 鮎田 昇平

十周年まことにおめでとうございます。

鹿沼カントリー倶楽部の開場当時といえば、関東地方にもまだ数えるほどしかゴルフ場がないところで、ゴルフ人口も少なく、開場はしたものの、その将来は必ずしもバラ色に満ちたものではありませんでした。ゴルフブームに湧きかえる今日と比べますと、「十年ひとむかし」の言葉どおり、まさに隔世の感がいたします。

この十年間、当倶楽部が幾多の難関を乗り越え、経営の刷新と真のメンバーシップの確立をめざし、相互の信頼を基として、諸々の改善を行ってまいりましたことは、すでに皆様ご高承のとおりでございます。

私個人といたしましても、倶楽部理事会のメンバーとして、発展著しい当倶楽部と歩みを共にしてこ

られましたことを、無上の光栄に存じている次第です。

十周年を契機に鹿沼カントリー倶楽部のゴルフ環境はいちだんと整備されています。

49年10月10日には、十周年の記念式典と日と同じくして増設「黄金コース」9ホールをオープンいたしました。黄金コースは、緑濃い林間の素晴らしいコースです。さらに、50年1月にはクラブハウスの増改築もほぼ完成いたしました。

今後も会員の皆様が心身ともに憩える日本一のカントリー倶楽部を目指し、皆様と共に努力していきたいと考えております。

何卒よろしくご指導ご鞭撻賜りますよう心からお願い申し上げます。

簡単ではございますが十周年の祝辞といたします。



10周年を祝して

(株)鹿沼カントリー倶楽部
取締役会長

柳田 誠二郎

鹿沼カントリー倶楽部が10周年を迎え、また、これと同時に黄金コース9ホールが完成しましたことは、まことにめでたい限りであります。

倶楽部をここまで立派なものにされた会員の皆様また倶楽部関係の方々のご協力とご苦勞に対し、深く感謝の意を表します。

現在、日本のゴルフ界は、花の真盛りであります。それは、ゴルフが健全なスポーツであることによる

のはもちろんですが、日本人、ことに若い世代の人達が、お互い仲間意識、同胞意識をもって、心からの付き合いができることが大いにあづかっていると思うのです。

鹿沼カントリー倶楽部の会員の方々のプレーを通じての友情が、このめでたい10周年を期してさらに深くなることを念願し、あわせて倶楽部の隆盛を祈る次第です。

10周年によせて

鹿沼カントリー倶楽部
顧問

藤松 正憲



当倶楽部は栃木県下における10番目のゴルフ場として昭和39年10月20日開場し、49年で満10周年を迎えることができました。当初は溜国観光株式会社が造成・経営に当り、その後東京の藤枝さんの手に経営が移りましたが、藤枝さんもやがて病気になるため、倶楽部経営に専念することが困難となられたため、倶楽部経営権の一切を地元の関係者に譲渡したいというご意思により、当時、倶楽部の副社長をされていた福島充氏が経営を継承し、現在にいたっております。

私が当倶楽部の顧問として就任したのは、福島充氏が社長として経営にあられるようになってからのことですが、顧問就任の要請をうけたとき、会員のうち大半の方々が地元関係者であり、私が会長をしている足利銀行の取引先でもあること、また福島社長が、以前当行楡木代理店の店主であられたこともあり、快く引受け、現在まで会員各位のため、倶楽部発展のために微力ながら協力して参った次第でございます。

その当時倶楽部経営を譲り受けた福島社長をはじめとする経営陣ならびに従業員は、当倶楽部を名実ともに県下における立派なゴルフ場とすべく、ひたむきな情熱と努力を傾注されました。この間の努力が実り、折からのゴルフブームと相俟って順調な歩みを続けて参りまして、現在では年間10万人ものプ

レーヤーが来場するゴルフ場にまで成長をみましましたことは、まことにご同慶にたえないところでございますが、これもひとえに会員の皆様の温かいご理解とご支援によるものでありまして、心より感謝申し上げます。

このたび10周年を迎えるにあたり、施設の一層の改善と環境整備を意図してクラブハウスの改装をはかるとともに、当倶楽部開場以来の懸案でありました9ホール増設をも進め、このたび無事オープン運びとなりました。用地関係の地主の方々には、殊のほか深いご理解と全面的なご協力をいただき、本誌上を借りて厚く御礼を申し上げる次第であります。

最近の日本経済は、総需要抑制策等の浸透による景気の落ち込みと、インフレ高進とが併存する状態にありまして、景気の早期回復は望み難く、ゴルフ場の経営にも幾多の試練が待ち受けていることと存じます。

ゴルフ場経営は恵まれた立地条件と完備せる諸施設（ぜいたくという意味ではありません。むしろ簡素であるべきでしょう）が必要条件ではありますが、キメの細かい暖かいサービスを提供し、会員の皆様に十分にご満足を与えることをつねに心がけていただきたいと思います。日常の激務から解放され、大自然の中で快適なプレーをして浩然の気を養い、明日からの生活の意欲をかきたててくれる場所でありたいものです。

どうか役員一同においては、10年間に蓄積された経験を今後の飛躍への踏み台とするはもちろん、倶楽部をより一層会員本位の経営にもっていくとともに、10年間温かくご支援下さった会員の皆様に対し、謙虚に感謝の念を捧げて、明日の経営とサービスに当られるよう期待します。

また会員各位におかれましても、自分の倶楽部であるという自負と倶楽部経営への参画意識をもたれて、倶楽部経営者に対し積極的に適切なご助言を賜われますようお願い申し上げます。

私は今後も顧問の立場で倶楽部経営に良きアドバイスができるよう努力する所存でございます。

以上当倶楽部10周年にあたり一言申し述べ、ご挨拶いたします。



地元の発展のために

鹿沼カントリー倶楽部顧問 大場 武

10周年を迎えられた鹿沼カントリー倶楽部に心からお祝い申し上げます。

10年とひとくちに申しますが、この間の会員各位ならびに会社関係各位のご努力、ご苦労は、並大抵なものでなかったことと推察いたします。

なかでも私が最も敬意を抱いておりますのは、鹿沼カントリー倶楽部が10年前の計画当初より一貫して「地元の発展」という目標を掲げ、事実、その目標に沿った運営、経営を継続されてきたことでもあります。

これまでの鹿沼カントリー倶楽部の地元に対する貢献度は、はかり知れないものがあります。

それは決して経済的な面だけではありません。

社会の常識を重んじる健全な倶楽部、健全な企業として、精神的にも大なる寄与をされ、地元のリーダーたる役割を見事に果してくれました。

地元住民の生活と意見を無視して乱開発を行ない公害をばらまく悪徳企業が目立つ昨今、鹿沼カントリー倶楽部の存在価値はますます大きくなっております。

私、このたび顧問として鹿沼カントリー倶楽部の役員に就任しましたが、今後共地元のいっそうの発展を目指して微力ながら全力を尽し地域社会に貢献する所存でございます。

何卒よろしくご支援賜わりますようお願い申し上げます次第です。



田舎者の願い

（株）鹿沼カントリー倶楽部 代表取締役社長 福島 充

私はこの土地に生れ、そして育ち、この土地に住み、やがてこの土地に骨を埋める宿命のようなものをもっている根っからの田舎者であることを、自他ともに認めております。

そんな関係で、いわば不毛の地にひとしく利用価値に乏しい僻地であったこの広大な土地を何とか開発して世に送り出すことが、私の多年の夢であり宿願でありました。

たまたま私の友人が、埼玉の川口市に荒川沿岸を利用してゴルフ場を作り、その経営をしておりましたので、折にふれて、そこを訪ね、ゴルフ場というものの予備知識を得て、その将来性と地域への貢献度などの考察を続けてまいりましたのが、昭和35年ごろでありました。

しかし、これを実行に移すまでには相当の準備と研究期間が必要であり、ようやく確信を得たのは昭和38年でありました。そして、その年6月に本格的にゴルフ場造成に乗りだした次第であります。

約50万坪（165万m²）の用地に36Hという、当県最大の規模をもって始めたわけですが、何せ封建度の強い農村地帯に加えて、ゴルフなど全然知らない多くの人達を説得して承諾をしてもらうことは、並々ならぬ苦勞の連続でした。

幸い、私の家が、この地方では相当古く、先祖伝来の旧家であったためか、次第に大方の信頼をうけ、間もなく全用地の確保が出来た次第でありました。

私はそのとき、永い間にわたって受け継がれた歴史と伝統の有難さ、大切さを、しみじみ感じさせられたものです。

私共もまた一日一日の歴史を積みかさね、それを貴重な遺産として後世に残して行く義務があります。したがって毎日毎日が反省の連続であらねばならないと思います。過去の歴史は、どんなことがあっても絶対に訂正のできない厳然たるものであるからです。

さて用地の確保できた上は、これを経営する母体

が必要となりますので、私達は、この年に帝国観光株式会社を創立して経営に当たったわけでありませ

か。かくして昭和38年10月、めでたく36ホールのゴルフ場がオープンいたしました。その後、順調に進展をいたしましたので、帝国観光株式会社と私との約束によってこの事業一切を株式会社鹿沼カントリー倶楽部が継承して現在に至りました。

爾後、会員のみなさまのたゆまないご協力とご指導によりまして、発展の一路をたどり、いまでは年間10万人に達する入場者をお迎えしている現況となりました。

私の初期の目的である地域経済発展への貢献は申すに及ばず、緑の自然環境を保全しつつ国民健康の場を提供することのよろこびを禁じ得ません。

ご承知のごとく、いかにすばらしいコースでも立地条件がともなわないとその発展は期し得ないと思

います。

49年10月に開場10周年を迎え、日毎に増加するゴルファーのために南コース南端を起点として新たに9ホールを増設・オープン、またコース及びその他の附帯設備も一段と改善いたしました。さらにクラブハウスの大増改築も、50年1月にほぼ完了いたしましたので、名実ともに会員のみなさまにご満足いただけるものと確信いたしております。

私は常に自然を愛し、ふるさとを愛し、そして人をこよなく愛することを生涯の信条といたしております。

この上は全社員とともに打って一丸となり、サービス精神に徹し、会員の皆さまとの対話、自然との対話の場をひろげ、ひいては社会に貢献の出来ま



恋焦がれて10年

(株)鹿沼カントリー倶楽部
代表取締役 副社長 福島 文雄

昭和39年10月にオープンして早や10年。振り返って見て感無量なのは私一人ではないと思います。

昭和39年といえば、東京オリンピックが開催された年、日本中が戦後初めて胸を張って平和なスポーツの祭典を楽しんだ年であります。そんな時期にわが「鹿沼カントリー倶楽部」がオープンした訳ですが、まだゴルフブームというにはほど遠いところで、広大な原野を一人じめにしてこの費用の高いゴルフを楽しむ愛好家はほんの一握りであったと思います。ちなみに当時の「鹿沼カントリー倶楽部事業計画書」を見ても、36ホールで1日平均入場者を150名しか見込んでおりませんでした。実際にオープンした後も来場者は非常に少なく、優待券を発行してまでゴルファー誘致対策を考えたのも、今は昔の話になってしまいました。

当時は現在の東北縦貫道もなく、「事業計画書」の中でも、39年末着工し、43年に完成予定された縦貫

道に、かなりの期待を寄せていたものです。実際には東北縦貫道は47年11月に開通したのですが、ゴルフブームは45、6年頃に開花し現在に至っている訳です。

私の現在までの半生は、苦労もありましたが、実に幸せだったと思います。とくに、理解ある倶楽部役員、そして会員にもりたてられ、10周年を記念して「黄金コース9ホール」を加え、錦上花を副える事ができました事は、何ものにも代えがたい無上の喜びであります。皆様の暖かいご支援に心から感謝申し上げます次第です。私はこの「鹿沼カントリー倶楽部」をこよなく愛し、恋焦れております。さらに20周年、30周年と、力の及ぶ限りを当倶楽部にそそぎ、皆様に愛される憩いの場作りに専念したいと思います。「安らぎの場を広げる鹿沼グループ」——これが私共全グループ社員のテーマなのです。どうか皆様もよろしくご後援の程お願い申し上げます。

矢野前理事長の急逝を悼む

鹿沼カントリー倶楽部



昨49年11月13日、鹿沼カントリー倶楽部前理事長矢野秀男氏（東野交通株式会社社長）が病気のため逝去されました。

ここに謹んで御弔辞を呈し、哀悼の意を表します。

故人は、株式会社鹿沼カントリー倶楽部発足時のいわば流動期に理事長に就任され、以来4年間、倶楽部の健全なる運営にことのほか尽力され、只今のごとき飛躍的發展の基盤をつくられた名理事長でありました。

昭和46年2月、第一回理事会にて理事長に推挙されましたが、その時、頬をあからめながら決意を語り、理事さん方に協力を求めておられた、あの温厚な中にも厳しい眼差しが、いまでも深く印象に残っています。

「ゴルフ場セミナー」49年4月号《理事長登壇》のインタビューの中で、48年の税制改正によるゴルフ場の固定資産税問題をとりあげられ、3年後、5年後に宅地なみ課税となったら、それこそ一大奇威だと言っておられましたが、その不安が現実とならぬうちに真剣に対策を講じることが、亡き前理事長へのせめてものお報いと信じます。

49年11月19日、宇都宮市で東野交通株式会社の社葬が、しめやかなうちにも盛大に挙行されましたが、亡き社長に対する社員各位の敬慕・惜別の情はひとしおで、涙ながらの焼香には胸うたれるものがございました。この労使一体の姿を見て、いまさらながら故人の海のごとく深い人徳に感銘いたした次第です。

謹んで御冥福をお祈りいたします。



↑ 造成中の鹿沼カントリー倶楽部（昭和38年）



鹿沼カントリー倶楽部

年	月	日	
38	6	27	北12番グリーン周辺にて、東久瀨稔彦氏外 400名参列、おごそかに地鎮祭を挙げる。
	7	2	コース進入路伐木より工事開始。
	7	27	池の森地区地主協力会結成、土地利用の承諾を全員より受け、8月3日契約金支払。
39	2	1	クラブハウス起工式
	3	2	市道を、コース東側へ用地買収し付け替え始める。
	3	10	鶴飼神社社地を同神社境内西隣に買収の上、ここに選座することに決定。
	4	20	池の森小学校通学路敷買収の上新設工事着手。
	5	8	古墳発掘、副葬品多数出土する。
	4	28	水源地井戸堀完成。
	10	20	クラブハウスの落成、北18ホールズの完成により盛大なる開場式を挙げる。
40	12	15	地権者を関西視察旅行へ招待（3泊4日）。
	12	25	黄金コース用地買収交渉始める。
	2	21	南1～2の右側へ貯水池造成工事起工する。
	5	18	楡の木荘建築工事開始。



↑ 開場式風景（昭和39年10月）



年 譜

年	月	日	
	7	8	倉庫落成（49・9 滅失新築工事着手）
	9	23	南コースオープン、36ホール営業開始。
	11	28	ゴルフ練習場開場。
41	2	15	平日会員募集始める。
	9	25	台風26号のため練習場、北10スタートハウス全壊、風倒木 200 本、建物破損等の災害甚大。
42	8	17	林業事務所にて「きじ」15羽放鳥。
43	8	20	近年にない雷雨襲来落雷多くハウス周辺 5 か所、送電線故障、待ち組掲示灯全壊等甚大な損害となる。
	9	4	林政第 139 号銃猟禁止区域指定。
44	2	20	南 3 番東側排水路工事開始。
	10	19	開場5周年記念競技実施。



開通当時の東北縦貫自動車道（昭和47年11月）



タイから贈られた小象のヒロバ君と遊ぶクラブ近辺の小学生たち（昭和47年10月）

年	月	日		
45	5	27	水源地が東北縦貫自動車道の敷地となるため日本道路公団との交渉成立、道路南側道に面した地点へ移転。	
		10	17	株式会社鹿沼カントリー倶楽部新経営陣にて継承事業運営開始。
46	2	7	鹿沼カントリー倶楽部第1回理事会開催。	
		19	北16、17番ホール改造工事着手。	
		2	9	月曜定休日を木曜定休日に変更。
		21	9	パブリケーション委員会にて会報「かぬま」発行決議。
		5	11	理事滝沢左内氏逝去される。
47	1	22	11	北No16、No17ホール改造終り修祓式挙る。
		12	1	福島充代表取締役社長に就任。
		14	1	柳田誠二郎取締役会長に就任。
		15	2	第3回理事会開催。
		6	9	第4回理事会開催。



高松宮殿下ご来場（昭和48年10月）



「圭三訪門」での高橋圭三氏(右)と福島充社長（昭和49年9月）

年 月 日

	10	16	高松宮殿下ご夫妻ご来場。
	10	20	タイ国バンコクの松田嘉久氏から大阪万博にて出生した象（ヒロバ）が贈られる。
	11	13	東北縦貫自動車道、岩槻一字都宮間開通。
48	10	11	高松宮殿下ご来場。
49	4	19	現行諸料金改訂実施。
	7	3	クラブハウス増改築工事開始。
	9	26	TBSテレビ圭三訪門に鹿沼カントリー倶楽部登場
	10	10	開場十周年記念式典挙行。黄金コース9ホール、オープン。
	10	12	十周年記念祝賀競技会。
		15	〃
	11	2	〃
		4	〃
	11	13	矢野理事長逝去される。
50	3	22	鮎田昇平新理事長に就任。

回想10年 ——— 会員随想

(すべて49年10月～11月にご執筆いただきました)

ゴルフ雑感



古河市八幡町
遠藤 靖

(1) ゴルフ15年前と現在

私がゴルフを始めたのは15年前である。当時群馬県の小泉に進駐軍のコースがあり、それがきっかけで夢中になりはじめたのであります。青い空のもと緑の芝生の上を白球を追って飛び廻ったことがストレス解消になって、10年は若返っていたように思います。

福島社長のご家族のお話しによりますと、15年前頃、社長は現在の鹿沼カントリー倶楽部となっている山へ毎日登り、ゴルフ場建設の構想を練っておられたそうですが、今日のゴルフブームを察して全く先見の明があったと感服させられます。

最近では、ビジターを取らないとやって行けない各クラブの台所の関係と名門コースでプレーしたいと云う人間の心理とによりまして、だいぶ様子が変化してきた様であります。

(2) ゴルフとは如何なるものか

ゴルフは一人で始める場合は稀で、同じくらいの腕前の人と同時に始めるか、親切に教えてくれる大先輩にでも巡り会わない限り、高価なクラブを惜しげなく買い、高い入会金を払って会員になる事は、考えさせられるでしょう。

ゴルフは用具ではなく基本技術が出来ていなければ駄目なのは、わかっておりますが、最近は月給を全部はたいてブラックシャフトなる高価なクラブを買い、相手より少しでも飛ばしてやろうなどという考えを起すようになりました。これもゴルファー人情として致し方ありません。

「ゴルフは何年で上達するか」と云う質問をよく耳にします。人によっては1年で他人の10年分コース

に出る人もあるらしいので一概にはいえませんが、平均的に言うと、3年程で上達すると云う話であります。

コースを40台で常時廻る人は、仕事にちょっと熱心が欠け、銀行では金を貸すのを考慮する。50台で廻る人はまあまあで、自分の健康管理のためにゴルフをやっている。60台で廻る人は不勉強でありゴルフの第一歩からやり直す必要がある——と悪口を云っている人がいるが、プロに云わせると、常時40台を出せない人はどこか欠点があると云う事になっています。

しかし何と云われようが、ゴルフを一度始めたら余程の理由がない限りやめる人はいないのであります。

(3) クラブに対する希望を含めての私見

ゴルフクラブは会員の強力な支援があってこそ成立つものであり、会員同志、また会員とクラブ経営者とを結ぶ強力なパイプには常に血が通っていないければ、クラブの発展は望めないのではないのでしょうか。したがって会員の苦情を受け入れるための窓口を設ける事も必要でありましょう。

会員と致しましても自分のクラブに愛着を持つ事が必要であり、自分のクラブの不平不満を他人にもらす会員があっては勿論いけないと思います。

私は職業の関係と年齢から、ゴルフに打込める環境が中々作り出せなくなりました。しかし自分の天職に忠実である事と共に、ゴルフを体力保持のために利用する事が人生を働き甲斐のある有意義なものとする一法と考えます。

クラブのシングルプレーヤーは、人格技能共にすぐれた人々であります。最近ゴルフが一般大衆化するにしたがってエチケットが忘れられつつある気が致します。近來の風調は自分本位で、約束を破る事を平気な人が時々見受けられます。

最近当鹿沼カントリー倶楽部に限らずコンペのスタートの受付に予約金制を採用し、キャンセルに対しクラブが会員にペナルティを払わせるコースが多くなってきたのは当然かと考えますが、人によってはやむを得ない事情が当日突発することもありますので、この点は考える必要があると思います。

今日の日本の税制によって、健全なスポーツであるゴルフが、競輪競馬なみに課税される事には反対であり、ゴルフ倶楽部側としても出来るだけゴルファーの負担を軽くする事も、鹿沼カントリー倶楽部が、名門コースとして一流となった折には、ぜひ考えねばならない問題でありましょう。

(4) 名門コースと新設コース

名門コースとは芝の管理がよく行き届いており、会員のマナーがよく、いつ行ってもスタートがとれ、土地の値段を会員数で割ってもかなり高額になる、コースを言うのではないかと自分なりに考えています。

たとえば36ホールで会員数1500名。18ホールで700名としても、常識的に考えて1500名や700名の会員が日曜日に一度にスタートを申込んだら、どんな事になるかは明らかであります。しかし、他コースの会員にもなっている人が多ければそのような混乱は避けられます。

今度鹿沼カントリー倶楽部の会員が多数入会なさったと思われる鹿沼グループの鹿沼72カントリークラブが次第にその雄大な姿を現わして来た事は、我々にとって非常に喜ばしい事であります。

将来スタートの予約もスムーズになるでしょうし、予約金制度も会員に限り無くなる事を望んでおります。倶楽部の経営者の方々もわれわれ会員が自分のコースに愛着を持ち、多くのビジターを連れてクラブの繁栄のために協力して下されば会員のグリーンフィなど、いらなくなると、考えているのではないのでしょうか。

石油ショック以来世の中の情勢も一変し、新設せんとするコースは色々の面で苦難に直面しているようですが、それに打勝って誕生するコースこそ名実ともにそなえた名門コースと云われることができるのです。

最近の地価、諸物価の上昇と共に新設コースの第一次募集は500万円以上が常識になって、お金持だけが投資すると云う形になってきました。

一般大衆から離れた募集方法は考えなければならぬでしょう。一般大衆から遊離したスポーツはいつか忘れられ、見放される時代が必ずやってくると考えます。大衆の支持を得るコースのみが名門コースとして残ると云う時代が来てもよい様な気が致します。不幸にして「第一次募集が500万円以上のコースでなければ一流コースとして認めない」と極言す

る人があるとしたら、現在の時点では大変間違った考えではないでしょうか……。

大切な庭



宇都宮市宿郷町

小瀬 廣

鹿沼カントリー倶楽部 開場10周年おめでとうございます。

私が、まだゴルフをやらない頃、どうしてあんな馬鹿馬鹿しいことに、大のおとなが夢中になるのか、不思議でならなかった。

ふとしたことで、さそわれるまゝ、初めて行ったゴルフ場、

「鹿沼カントリー倶楽部」……

無我夢中の中に終わってしまったプレーだったが、たった一度でゴルフのとりこになってしまった。

それからは何をさておいても、仕事以外はゴルフに明け暮れる毎日……。

しかし悲しい事に、ホームコースをもたない私は、なんとなく、安心してプレーすることが出来ず、一生ゴルフだけは、やめられないと云う思いにかられて、会員になることに決めた。

方々見て廻った上、やっぱり鹿沼カントリー倶楽部以外はないと決心、正会員になった。

過去8年、ふり返って見て、本当に良かったと思う。

その後、他のゴルフ場の会員にもなったが、鹿沼カントリーに行ったときが、一番豊かな気持ちでプレーすることが出来る。

男人生仕事第一と、良く云われるけれど、仕事仕事の明けくれば、心身が疲れきったとき、やっぱり、人間だから、何かのたのしみを求めなければいけないのが当然であろう。

ゴルフは、肉体の健康に良いのはもちろん、精神の疲労回復にも、この上なく良いと思う。

青い空の下、緑の美しい芝生、倶楽部の人達の暖かい心遣いに、いつも気持ちよくプレーが出来る。

一時仕事が忙がしく、どうしても抜けられないコンペ以外に時間がとれず、鹿沼カントリーに、しばらくご無沙汰したことがあった。

その時、すぐくスランプにおちいり、たのしいはずのゴルフが、苦しみの種になってしまった。私は、思い切って鹿沼カントリーに足を向けた。大切なコンペを棒に振って……、私の決断は誤っていなかった。やはり鹿沼カントリーはいい、心からなごやかになる。

心がおだやかになると、あんなに悪かったショットが決まり、徐々に元に戻れた。

鹿沼カントリー倶楽部は、私の心の中の大切な庭だ。大切にしたい。…と心から思う。

これからも、いろいろお世話になるでしょう。私の人生ある限り、ゴルフを忘れることはできないだろうから。

キャディに自信を



東京都千代田区

荻村 隆

十周年記念コンペをラウンドしながら、ふと十年前の開場記念コンペを思い出した。当日の天気は記憶にないが、秋の長雨の後に行なわれた事は確かである。

造成を終えて間もないコースは、何処と云わずアップリと水を含み、芝は浮き上り、傾斜地の芝は只でさえ今にも滑り落ちようとしていた。

そこに、降って湧いたような、大勢のプレーヤーが押し寄せたのだから、たまったものではない。たちまちのうちに芝は崩され、コースのあちこちが泥沼と化した。

皆、この取り返しの付かない貌を見て、何か過ちを犯してしまったという悔悟の念さえ持たされたものである。事実、これが回復には数年を要した筈である。

今回の南in14、15、16番も、ほとんど同様な条件下で使用されたが、大過なくコースが育成されてゆく事を願ってやまない。

さて、鹿沼のコース自体は、東京近郊の、名門と云われる単調なコースよりも、はるかに優れていると思うし、ここを訪れたビジターの誰もが、コースに充分満足して帰ってくれる。確かに、一部を除いては、傾斜といい、組合せといい、バランスの取れた実に良いコースである。

だが、何か欠けていると感じるのは、あながち私一人だけではあるまい。この点、現経営陣の方々が「格調高き鹿沼」を目指して行動を起された事は、メンバーの一員として、誠に御同慶の至りであり、是非とも実現して頂きたい。

しかし、コース関係者が、いかに努力されようとも、プレーヤー自身の自覚を持たなければ、いつまでも「田舎コース」の域を脱する事は出来ないと思う。

ゴルフ人口の急激な増加にともない「ゴルフ上手のゴルフ知らず」が余りにも増え過ぎた。スコアだけを評価するなら、シングルに近いと思われる者が、当然守るべきティーグラウンドでのマナーとか、グリーン上でのエチケットとか、まったく出来ていない。残念な事だ。

これを解決するのは、キャディーに頼るしか方法はないように思う。一人一人のキャディーに「ここは私達のコースである」という自覚と責任を持たせ、極端な表現かも知れないが、マナーの悪いプレーヤーには、たとえ相手がメンバーでも、途中退場を勧告出来るくらいの自信を持たせるべきである。北outや、南outで3時間近くもかかる等は、論外ではなからうか。

残念ながら、鹿沼は、今では数少ない無記名法人の保有コースの一つに残ってしまったが、そろそろ記名式に変えても良い時期ではなからうか。土曜、日曜のスタートの申込みが、9時半にメ切られてしまうのでは、個人メンバーとして余りにも切ない気がする。せめて、ひと電話、ひと組、受付けといった事ぐらいは出来ぬものか。

コース関係者の方々も、何かと心労多き事とお察しするが、せっかくの名コースを、名実共にそなわったものに育てるため、なお一層のお骨折りお願いしてやみません。

10年ひとむかし



鹿沼市末広町
桜井 勝一

十年一昔といいますが、当鹿沼カントリー倶楽部もいつの間にか十年が過ぎました。

十年前、昭和39年といえば、東海道新幹線開通、東京オリンピック開催、それにまつわる長島選手の世紀の大恋愛、王選手の55本のホームラン日本記録、ゴルフボールのスマール球が正式競技使用公認という状況の時でした。

私がゴルフを始めたのも丁度その年の四月だったと思います。鹿沼にもゴルフ場が出来るので会員になるよう、先輩にすすめられ、ゴルフの「ゴ」の字も知らなかった私がクラブを握って半年後、10月20日に当倶楽部がオープン致しました。

私は22日にオープン記念招待競技に初めて出場し、36のハンディで10位に入賞した時の感激は今でも忘れる事が出来ません。その時一緒にプレーさせていただいた同伴者の一人、1972年セニアチャンピオンになられた浅見栄一氏の「一打一打を参考にしよう」と一生懸命についていった事を覚えています。

当時の当倶楽部の毎日の入場者は20人か30人位で、現在のようにわずらわしいスタートの予約もなく、午後から出かけて行ってもキャディーさんは、いつでも待っていてくれました。ゴルフ中毒に罹った私は毎日のように午後から出かけてゆきました。ある時は朝一番にスタートし、1ラウンドで帰り、ひと仕事をして午後3時頃また行って1ラウンドするというような事も二三度ありました。

当時アシスタントプロの鈴木茂氏に師事し、早くシングルになろうと日夜を問わず練習に励んだことを懐かしく思い出します。

そうこうしている間に継ぎ接ぎだらけの芝生も生え揃い、41年4月、いよいよクラブ競技第1回月例杯が開催される事になり、当時ハンディは15になっていましたが、その記念すべき第1回Aクラスに幸運にも優勝してしまったのです。

その後、火に油を注いだようにゴルフ一途に突っ走った私は、鹿沼カントリーと共に誕生し、共に育ったようなものです。

その後も数々の競技に出場し、多方面の方々とも交流をもち、私なりに視野も広がった事は、当倶楽部のメンバーになったお陰と今更ながら良かったと思っております。

もう1つ良かったと思う事は、コースの立地条件、周囲の風景の良い事です。現在の新設ゴルフ場といえば、土地代の高騰などで、主に山岳コースが多く、アップダウンがきついようですが、鹿沼カントリーはほぼフラットに近く、ゆったりとしたレイアウトになっており、四季おりおりの趣きがふんだんに味わえます。

また風景にしても、北に日光連山、北東に高原山、南東に筑波山、南西に富士山が見え、のどかな田園風景と相まって、北コースでも南コースでも独特の風景が私を堪能させてくれます。これらを10年間味わった私は非常に幸せだと思います。しかし十年の間には、名残り惜しくメンバーを去った知人もいれば、新しくメンバーとして入って来られる人達もいます。

10年たった今、新幹線は故障だらけ、巨人軍も王座を去り、長島選手も引退、スマール球かラージ球かの論争、十年前の全盛プロから現在の尾崎、青木時代と時は移り変ってゆく中で、鹿沼カントリー倶楽部だけは10年前と変わらず、否、益々栄え、さらに十年後も変わらず、メンバー全員が楽しくゴルフが出来るよう、心から祈ってやみません。

ホール・イン・ワン をするの記



東京都墨田区
守重 静雄

診察に、手術に、分娩に熱心なのは、それを職として生計を立てているからやむをえないが、ほかの事で、ひとつの事にあきもせず益々熱中でき、麻薬中毒の如く一度味を知るとやめる事のできぬ性質

を持つものに、ゴルフがある。

巷間、ゴルフを始めて途中でやめた人は天皇陛下だけであると云われている。

今まで野球、卓球、撞球、剣道、弓道、謡曲、ダンス、パチンコ等、一応やってみたが、中毒になるほど熱心にはなれなかった。が、ゴルフだけは違った。人生にこれほど熱中できるものがあるとは思ってもみなかった。

広大なコースに出てプレーをすると、仕事も浮世の事もすっかり忘れ、大いに気分転換になる。休日になると、それこそ風雨をもちとわず、そわそわして出かけるようになった。

聞くと、大部分のゴルファーが、その前夜は子供が明日の遠征を楽しみにして浮き浮きしてよく眠れない、あの心境に、大の大人になるようである。ゴルフはそれほどの魔力をもっている。しかもゴルフというものは孤独なスポーツで、自己と闘うスポーツである。

今までバーディは時々出した事はある、イーグルも数回あるが、ゴルファーの夢であるホールインワンを出した事はなかった。

ものの本によると、元アメリカ大統領の故アイクは、死ぬ直前に、50年ゴルフをやっていて始めて出したとの事。岸元首相は、30年やっていてまだ出した事がないとの事である。

さて1969年3月9日、始終やっている球友3人と鹿沼CC北コースでラウンドした。

アウトは、かなり長いパットがいやらしいほどよく決まって(パット数12)、2オーバーの38であり、かなり彼等からかせいでいた。インのスタートの時、げんなりした彼等に「アウトよりさらにショッキングなプレーをしますよ」等と冗談を言い、舌戦を繰り返しながら、インの12番、169ヤード打ちおろしのショートホールに来た。

グリーンの正面に1本大きな松の木がスタイミーにあり、グリーンの前左右をバンカーが堅くガードしてグリーンは島状になっている。5番アイアンを持った。打った時、吾ながらいいフィーリングで打ったナと思った。白球はピンに向かってまっすぐに飛んだ。

これは奇ったな、と思った時、球友の1人が「入るぞ、入るぞ」と叫んだ。球はピンの約50cm手前に落ち、スルスルとホールに向ってすべり、見えなくなった。ホール・イン・ワン!?

その瞬間は、それほどの感激はなかったけれど、パートナーの拍手と歓声で「遂にやったな」との思いがこみ上げてきた。不思議と、入った事よりも、打った感じが近來にないよいスイングであったという思いの方が強かった。

ホールインワンをすると、その後からくづれるものだと巷間云われているが、私はなんとしても今まで出した事のない「アウトイン共30台」であがろうと決意し、慎重にプレーを続けた。

最終ホールにきた。それまで、3オーバーだったので、こゝをパーであがれば39と胸算用をしたところ、ティーショットをOBし、遂に42となってしまった。しかし、3人のパートナーの方が、私のホールインワン以後乱れ出し、パットでは大勝をはくした。その晩、球友を招待して飲んだ酒、ビールのうまかった事。「遂に出たな」「今年はついているな」との感がこみあげ、いつまでもニヤニヤとしていたのであった。

超ビギナー



宇都宮市今泉町
菊地 豊朔

ゴルフは日常運動不足の方のお遊び的健康管理程度の競技であると思込でいたものである。

今から7年前のこと、先輩に誘われるままにゴルフを初めてやることになったのは、8月の暑い日曜日であった。当時、私は野球が好きで、暇さえあればグローブを手にしていたので、ゴルフなど一度も見たこともなく、無論クラブも手にしたこともなかった。諸用具一式を先輩に用意して載せ、朝早く鹿沼CCへ向かったのである。車中、先輩の知る範囲のルールの説明を聞きながらコースに出るわけである。

現在のようにゴルフ場が満員では、私のような者がコースに出るのは非常識者としてお叱りを蒙るだろうが、当時はプレーする人も少なく、練習者もないので、止むを得ず許されたのだろう。

ゴルフはなかなか上達しない、むずかしい競技で

あることを強調する先輩の話しを「静止しているボールを打てないとは、なんて不器用な人達だろう。自分は動いているボールを常に打っている。運動神経の差だ」と内心笑っていた。ハザード、バンカー、ラフ等の用語がでてくるが、さっぱり判らない。始めれば判るだろう。ともかく他の人に迷惑をかけぬことをモットーとすることだけは十分納得した。

倶楽部に着いても何をしてよいやら、ただ先輩の後からオロオロしながらついて歩くだけ。一日御指導を受ける身であるから、何かと役に立ちたいと思っても、結局は人まかせでスタートとなった。

当時はすべて初めてなので夢中でスタートしたが、コース番号がNo.1と書いてあったのを記憶している。「どうにかなるだろう」という私の考えがあまりに甘かったことを思い知らされたのは、スタートの第一打からだ。要するにどうにもならないのだ。すべて思う反対方向にばかりボールは飛ぶ。お隣さんや山の中、進行上“手の5番”使用のお許しができる始末。遅れて迷惑をかけないようにと左右に飛び歩き、ようようにして9ホールが終った。

食事の合い間にスコアのトータルを出し合う。

「どうも君のは少なすぎる。もう一度計算してみるように」と言われたが、何度やっても同じ数である。

B氏が笑いながら「君はOKの数が入れてないのではないか」と言うと他の先輩達も笑いだした。私としては正直に記入しているつもりなのに少々不愉快である。A氏「OKはルールにはなく、進行上同伴者の了解事項である。もう一度打てば必ず入ることとして一打を認めたものだ。ボールが静止した地点がカップに近いから入ったことと同じであるとするのではない。次回から必ずカードに記入するよう」——言われてみれば、なるほど私が誤って記入していたようだった。しかし、なにか頭の中にスッキリしないものが残る。

先輩達がプレー中の自慢話、失敗談に反省をまじえて楽しそうに話し続けるうちにそろそろ時間だ。一同今朝スタートしたところと別な方向に向かう。歩きながらも、「今度はガッチリやる」とか「あのような場合はこうする」とか、そうしなければ命でもとられるような気の入れようである。

初めての私としては、いささか滑稽に思えないでもなかったが、その雰囲気にもまれ、先輩達のスコアに少しでも近づこう、まず飛ばすことより確実にグリーンに上げることをと、笑われながらも尺取

戦法にでた。

最初のコースで遅れて先輩のお荷物になってはと走り廻った事もあって、少々バテ気味ではあったが、ダブルボギー、ボギーとまあまあ出来で、どうにか付いて行った。

15番に着いた頃、県内特有の雷雲が空一面に広がり、間もなく大粒の雨が落ち初め、“不動の4番”の私が打つ頃は相当の降りとなった。売店に飛び込む。雨の止む間だけは走り廻ることがないだろうと思うと煙草もうまい。

30分もすると小降りになる。雷はまだ強いが、先輩諸氏は殆んど気にしない様子で外に出て行く。

ゴルフは始めたら中止出来ない競技なのだろうか。致し方なく続けるより外なし。



16番は比較的コースが低く、夕立の水溜りばかり。靴の中は水でグシャグシャ。水虫にでもなったら…そんな事ばかり気にしながらプレーを続ける。

そして17番。ここで私は鹿沼CCがある限り絶対に忘れ得ぬ思い出を残すことになった。セコンドショットのボールが右側バンカー手前のラフの境に出来た水溜りへボシャン。水の深さは10cm以上もある。

この場合どう始末するかと先輩に尋ねる。彼らは顔を見合せ、「そのまま打て」とのこと。だが、どう考えても私の腕前では無理。ましてや初めてのことである。こういう時、熟練者はどうするのかと尋ねても返事はない。悲しくなってキャディーさんに尋ねる。彼女からも何の解答もない。止むを得ず水の中に入った。そして思いきり打ってみた。一瞬、水飛沫と泥が舞い上る。ボールはどの方向に飛んだかわからない。右だ左だ、と言うだけである。皆で探して歩いたが、どうしても見当たらない。

当時の私がロストボールの処置を知らないことは申すまでもない。どうしても探さなくては、と心はあせる。食べ始めた菓子を取り上げられた子犬のよ

うに飛び廻った。第三者が見ていたら誠に滑稽な姿であったろう。先程の雨でまだ休んでいるのか、人影のないのを幸い、先程の水溜りに戻って見ると、なんとボールは無情にも元の位置にあるではないか。初心者故、手の5番の使用をお認め願って続行と相成った訳だが、カジュアルウォーターでの処置を誰れも知らなかったのだろうか。

あせりながらボールを探し廻っているときの何とも表現できないあの気持。今でも17番にくると一人笑いが込み上げてくる。

当時はルールブックや練習場も殆んどなく、本番ゴルフが当り前であったが、それにしても知識不足は申すまでもない。

どうにか18番も終り、湯につかりながら、このように神経と体力を消耗する競技はこりこり、二度とやるまいと思ひ、以後3年近く、クラブを手にすることもなかった。

その後ゴルフ人口も日を追って増加し、周囲の人達にもゴルフをやる人が多く出来、年会費を払ってやらないなんてもったいないと再度の誘いに応ずるようになり、固い誓いを破ってクラブを握り、今日に至った。

今ではゴルフ当日は遠足を待つ小学生の心境である。

7年前の先輩のゴルフに対する気持が今更ながら理解でき、当時、内心、滑稽に思ったことを詫び入る次第である。

初めて鹿沼CCに行った時から続けていれば、例え月一ゴルフでも、もっと上達していたらうにと、現在の腕前に手前勝手な理屈をつけて満足しているのが現況である。

二度目にクラブを握った当時、口やかましく教えられたマナーは、先輩諸氏の遺産として守り続けるであろう。

種々問題を残したまま引き受け、今日の鹿沼CCに育てて開場10周年を迎えられることは、関係各位の努力の賜物と心より感謝の意を表すると共に、会員各位のよき協力のもとに、さらに充実した鹿沼CCとなりますことを望んで止みません。

“馬の背”の思い出



栃木県安蘇郡葛生町
田沢 義明

鹿沼カントリー倶楽部がこのたび開場10周年を迎えられたことは誠に喜びにたえません。心からお祝いを申し上げます。

今になってみると、もう10年になるかなと、今更ながらいろいろ過ぎ去ったことが憶ばれる。

当時の帝国観光時代から経営陣も変りホールも18から36へ、そうしてこのたび更に9ホール増設へと、幾多の山道を歩いては、そのたびごとに躍進してきた。

そうして今日のように立派なゴルフ場に育ってきたことは誠に感慨深いものがある。

私はオープンすると直ぐに、友人西村君（西村鋳業社長）とたびたび出かけてお互いに棒切れを持って靴底のドロを落しながらドロンコゲームをたのしんだものだった。

当時オープンしたばかりだったのか、なんとなく殺風景であったので、せめて花でも添えてみたいと思ひ、桜の苗木を寄贈したが、土質の関係か、なかなか思うように成長してくれなかった。しかし、この春10周年を祝うかのようにチラホラ咲き始めまた最近では、各ホールの所々に花も植えられて風情も増してきた。会員みんなが気分よくプレーできるよう一層ゴルフ場としても配慮を願いたいものだ。

さて印象深い思い出をひとつ。

鹿沼ゴルフ場の名所、馬の背コースといわれる旧南15番、このホールは鹿沼でゴルフをされた方はよくご存知だろうが、馬の背の異名のとおおり、真中が高く両サイドが低い。特に左側は急傾斜で、OB防止の金網の柵はあっても、お義理程度の低いもので、曲がるくせのある人は特に難所であり、OBは珍らしくない。このホールに来るとウッドからアイアンに変える人も少なくない。

私も珍らしく44のベースでまわったので、ここでOBをだしてはとクラブの選定に迷っていたところ、

キャディ君が私にこんなことを話してくれた。

この間のお客さんは2オンして7パットでしたヨ、珍らしいですね……。

私はスプーンを持ち出して、ティショットの前に、そりゃあいくらなんでもお粗末だヨ、といいながらショットした。珍らしく真直ぐに飛んだ。距離も大分でた。セカンドは軽く9番でオンという具合で気分をよくしてグリーンに行ってみると、手前にやっとなオンした程度。

これは距離もあるし下りだから3パットするかナと思ひながら先ず打った。ボールはコロコロとおどるようにして途中からスピードを増し、グリーン外へ。まさに4倍増資といったところ。

下から2打目は弱い。3打目もこれまた弱い。4打目は強くてスライスした。5打目は心を静めて慎重に打ったつもりがカップのへりをスルスルと通りぬけて、またオーバーしてしまった。

こんなはずはないと心はあせるし同僚は笑う、お世辞になくさめる。マナーもエチケットもあったものじゃない。悪い奴等だと思ひながら遂に7パットで苦しい戦いは終わった。

キャディ君は「余計なこと言ったから、申し訳ない」と詫がるし、同僚はこれでガタガタくずれるぞとばかり喜ぶし、私はがっかりして汗をふく有様で、自分の下手を棚にあげて、グリーンを怨んだことがあった。

この15番ホールは、このたびの9ホール増設に伴い改造された。なつかしい馬の背コースも装いを新たに増設コースの1番ホールとして皆さんにお目見得することでしょう。

ゴルフはスコアも気になるが、ルールのもとマナーを守り、健全なスポーツとして楽しくプレーすることがのぞましい。

男体山の勇姿をながめ、大自然の中でゆったりとしたのしくプレーでき、いつまでもよい印象の残る鹿沼カントリー倶楽部として一層の発展を期待すると共に、ゴルファーの方々も自分のコース、私達のゴルフ場として育て、頂きたいと念願してやみません。

10年を顧りみて



岩槻市仲町

星野 一夫

光陰矢の如し……とか。つい先年オープンしたかと思っていたら、もう10年、本当に早いものです。

何事においても10年といえばその歴史の重さを感じさせるものですが、鹿沼（通常私達は鹿沼カントリー倶楽部を鹿沼と呼んでいる）も、コースの状況は大変立派になり、それなりの風格もそなわって来たと思います。ここまでになされたコース関係者の努力には大いに敬意を表し、感謝するものです。

さて10周年を迎えて原稿を何か書けと言われて大変困っております。つまらぬ話ならば、いくらでもするが、ものを書くなど到底できない。手紙さえ電話ですませる私ですので、どうもペンを取る気なぞさらさら起きず、そうこうしている内に期日は迫るし、電話では催促されるしで、仕方なく恥とともに書いている次第です。

10年と言えば、私もゴルフを始めて10年になる。（奇しくも鹿沼と同じ年になる訳です。）腕の方はビギナーなみですけれども、人一倍ゴルフを楽しんでいます。

昔、といっても何年も前ではないが、鹿沼で8時スタートとなると、朝6時前に出ないと間に合わない。朝早くから大変苦労しましたけれども、最近は東北縦貫高速道の開通で大変便利になりました。特に私の家は岩槻インターまで2・3分で行けるのだから全く便利この上ないのですが、世の中が忙がしくなったのか？、私自身が暇を見つけるのが下手（ゴルフと一緒に）なのか、ゴルフに行くチャンスが以前ほどなく、私の最大の悩みになっています。貧乏暇なし！とはよく言ったものです。

ゴルフをするために一生懸命働く、そして暇をつくってはゴルフを楽しむ。そのゴルフをすることによってストレスを解消し、健康を保持し、又明日への活力を得、また仕事に熱中、そしてゴルフノしかし、仕事を放ってゴルフに熱狂する（そんな人はい

ないと思うが)なんて全くのナンセンスです。

よく、どうしても具合が(仕事の面に)悪くゴルフどころでないと言う人がおられますが、私はそういう時こそゴルフをなささいと勧めます。すべてを忘れてゴルフをする事によって、前にも書いた通りストレスを解消し、余裕も出来て、新しい考えも生れるのではないのでしょうか。

私は人形屋という商売から、12月から4月一杯はほとんどゴルフが出来ないのですけれども、今年から1~2度位は何とかして行ってみたいと思っております。ご承知の通り人形は時季物ですので、皆さんの想像以上に忙がしいのです。でも半面ゴルフシーズンである5月~11月頃までは比較的暇がありますので、考え方によれば恵まれているといえます。

そういえば、ゴルフを始めてから全く健康になり、風邪をひかなくなり、ファイトを持って商売に精を出すことが出来て喜んでます。

また、別の喜びもあります。ゴルフを通していろいろな人と知り合いになり、貴重な体験談やら話を聞くことが出来、それが自分自身の人間形成の上にも、また商売上にも役立つことです。

ゴルフは本当に不思議なスポーツです。一度ゴルフの魅力を知った人間は、ゴルフの虜になってしまうのであります。私も例外ではなく、10年間下手なゴルフなのによく飽きもせず続けて来たものですが、いつのまにか10年たってしまったという感じです。

スコアが悪ければ今度こそと、良ければ夢よう一度と、精を出すのがゴルフであり、このへんが魅力ではないかと思えます。

今後もゴルフを楽しみながら一生懸命商売に励みたいと思っております。一つ一つのホールの攻め方など、やはり人生の何かと通じるものがあるのではないのでしょうか。鹿沼がより一層充実し、名実共に名門コースとなるように、メンバーの一員として心掛けたいと思います。今後の益々のご発展を祈ります。

ゴルフ礼賛



鹿沼市千渡

駒橋 堅司

鹿沼CCと、私の病院の開設は、共に39年である。その頃からゴルフを始めていけば今頃はシングルになっていたかも知れないが、開設当初は多忙で、ゴルフどころの騒ぎではなかった。という訳で、創立当時の倶楽部の様子は分らないが、先輩諸兄に種々話も聞き、私の始めた頃からでも、なくなったホールや大木もあり、だいぶ様子が変わってしまった。

私のゴルフを回顧すると、最初はほとんど練習もせず、ブツケ本番で昭和43年9月、那須国際でプレーしたのが始まりだが、その時の事は五里霧中で、余り記憶にもなく、面白いとも思わなかった。

二回目が12月宇都宮、第三回目が東武。この頃から、コースに出るたびの屈辱に耐えかねて幾分練習もし、44年6月1日、始めてホームコースの鹿沼を訪れ、南インコースから8時にスタートした。

スコアは、68、60、58。よく晴れて男体山がクッキリと見えたその日、広々とした緑のカーペット上で、白球をカッ飛ばし、紺碧の空の中に抛物線を描いて飛んで行くボールを追い、鳥の声や草の香りをかぐ余裕も出て、プレー終了後風呂入りで飲むビールのうまさに、いつの間にか、ゴルフの魅力にとりつかれているのを感じた。

なぜ早くやらなかったかと悔やんだものだ。その時ご一緒して載った川島先生に、4回目で60を切れるのだから素質があるとオダテられ、益々ゴルフ熱が上昇した。今年で足掛け6年のゴルフ歴になるが、HDCは中々上らない。木枯の吹く日や、雨の日曜日、朝早く家を出る私を、子供や妻は〈入院している患者さんより重症だ〉という。私自身、病気かな、と思う事もある。

〈人類の機知が発明した遊戯で、ゴルフほど健康で、保養と愉快な興奮と、つきざる興味の源泉とを与えるものはない。〉とは英国のゴルフ年鑑の巻頭に引用されたバルフォア卿のゴルフ礼賛の辞である

が、これはゴルファーの総意を代弁した言葉といえる。

何故そんなに面白いのかを分析して見ると、老いも若きも男女も問わないし、HDCのため公平に楽しめるし、軽運動で、家族で楽しめ、相手なしに1人でも出来る。ポビー・ジョンズのいうように「ゴルフには、人並みはずれた筋力はいらない。また、それがあつたとしても、必ずしも有利ではない」先日、プロレスの馬場とローラ・ポーのテレビマッチを見たが、馬場よりポーのドライバーの飛距離がまさっている事でも、それを実証できよう。これも魅力の一つであると思う。

ゴルフと健康については、論ずるまでもない。精神的にはストレスの解消にも役立つが、アイゼンハワー元米大統領が心筋梗塞で倒れた時、主治医が軽運動であるゴルフをすすめたというから、ゴルフは益こそあれ害はないという事である。

最後に、ゴルフはエチケット、忍耐、克己、公正、遵法の観念をもたなければ成立しないスポーツである。レフリーのいない唯一のゲームで、人生において、自己の不利、他人に有利になるよう心がけねばならない日をもつ事は、本当に意義のある事と思う。日本人論の多くの文献の中で、日本文化を「恥」の文化と呼び、西欧の「罪」の文化と対立させているが、たえず他人の顔色や世間の思感を気にし、人が見ている時は行ないをつゝしむが、人目の届かない所では何をしてもいい、というような状況主義的な考え方の是正、真のスポーツマンシップ、自ら心中に描いた理想的自我にふさわしい行動をとらねばならない。

自己の尊厳を傷つけぬために、他人に有利な判定をする精神こそ、自己との戦いでもあり、現代の人間に最も必要な事なのだろう。ゴルフのこのような特性が多くの人々の心に共感を呼び、魅力あるスポーツにしているのだと思う。

“敬遠”されぬよう



宇都宮市西一の沢
高倉 聡子

開場10周年おめでとうございます。

私のゴルフ歴は鹿沼カントリー倶楽部の歴史よりいささか浅く、8年程で、会員になったのも、ゴルフを始めてから2～3年経った頃だったと思いますので、歴史の前半のことはよくわからないのです。

それも平日会員であり、正会員になったのはつい今年の夏のことでした。何故正会員にならなかったかと申しますと、第一に経済上の理由から、第二に当時は現在のように土、日曜がメンバーのみという制限がなかったので非常に混んでいたこと、第三に5割引ぐらいの優待券がどんどん発行されていて、正会員になってもあまりメンバーとしての恩恵がないように思われたからなのです。

9時頃ゴルフ場に到着すると人が大勢いて、一体何時になったらスタートできるかと思ったことが再三でした。そして平日会員のため、月例にもでられず、メンバーという意識があまり感じられないまま今年夏まで過してきました。HDも18で長い間ストップしたままでした。今年になり、なんとかもう少し強くなりたい、その為には月例にどんどん出て公式戦で経験を積むことがどうしても必要と考えて、7月にやっと正会員になった次第なのです。

その結果、私は非常によかったですと思っています。第一、一人で好きな時に申込み、知らない大勢の方と知り合いになれ、色々教えられることも多く、また月例となると適度の緊張感もあり、張り合いがあるからなのです。HDもやっと14になり、Aクラスに入れるようになりました。何とか恥しくないゴルフが常にできるよう、そして女性だからといって敬遠されないようなスピーディな動作、スマートなマナーを身につけたゴルファーになりたいと思っています。

コースはグリーン、フェアウェイとも良く、プレイして非常に面白いと思います。最近たくさんの新

設コースがオープンしつつありますが、2ヶ所ほど行って見たところ、距離が長く、飛ばない私達女性にとってはとても大変で、やはり適当に短い、パーオンが可能なホールもいくつかないと面白くないと思いました。その点、鹿沼カントリー倶楽部は距離も適当で、中にはとても長いミドルホールもありますが、時には良いスコアでラウンドすることも可能であり、月例でバックより打ってもそれほど苦にならず、面白いと思っています。

従業員の方達も親切で気持ちよくプレーしていますが、倶楽部運営についての注文を申しあげるなら、スタート前に何箱かボールが打てるような練習場が欲しいこと、それから食堂のメニューにそば、ラーメン類を加えて欲しいこと、この二点であります。一般にゴルフ場の食事は高くて美味しくないとの定評がありますが、当倶楽部においてはそのようなことがありませんよう、切にお願い致します。

雑

感



宇都宮市宿郷町
米田 政弥

鹿沼CC10周年お目出とう。

10年ひと昔と云いますが、早いものです。私のゴルフは、北の10番のティーグラウンドでの空振り、空振り、チョロ、チョロから始まったのです。幾ら力いっぱいクラブを振り廻しても、ボールに当たってくれません。また当たってもボールは前に進んでくれません。こんなことってあるものか。こんな筈ではなかったぞと、焦りと憤り、そして恥かしさに、何にが何んだか分らぬままプレーを終ったのを、忘れはしません。

「止っているボールを叩いて、穴入れするくらい、子供だって出来らー。打てないのは、打つ気がないのか、よっぽど運動神経の鈍いやつさ」と馬鹿にしていた私 —取り引き先が靴、帽子、クラブ、グローブ、ボール、と揃えて来て、「明日9時のスタートですよ」の一言に、深く考えもせず、うかうかと

乗ったのが運の尽きだったようです。

練習はおろか、クラブすら振った事のない私、打てれば奇跡、当ればまぐれ、今考えると「盲、蛇に怖じず、と寒気立つ思いです。

それ以後は、お定りのコース、グリップがどう、スタンスがどう、タイミングが、等々、悩み、苦しみの蟻地獄、抜けるに抜けられぬ羽目となり、自分の腕の悪さを棚に上げ、アルミが良いと云えばアルミ、ブラックが飛ぶと云えばそれにと、テレビのなんとやらではないけれど、浮気の仕ほうだい、結果はますます悪い方向に行くばかりか、最近ではもう疲れました。諦めました。スコアーではない、健康の為だと自分で自分を慰めています。

さて私、何故だか、食堂委員とかになっております。“味オンチ”の私が、と自分でも不思議です。クラブ役員の、完全なミスキャストではと存じます。

それはそれとして、当クラブの食堂、これは会員として、「栃木県下一」と胸を張れます。(北関東一、或いは日本一と云いたい所ですが、私はそれほど、ゴルフ場荒らしをしておりません。念の為)一言にして云えば、値の割に美味と云う事でした。およそゴルフ場の食事は、高くて不味いのが相場とされておりますが、他のクラブの会員からも良く誉められます。しかし昨年来の物価高は、当食堂にも影響し、ご多分に漏れず、最近多少の値上げをしたようでしたら……ですが、どうやら味の低下も伴った様に感じられます。時節柄やむを得ずと申し上げます。

そもそもゴルフと栄養の関係はなどと、大上段に振りかぶるつもりはありませんが、ご承知の通り、ゴルフは、若い人から御老人まで、巾広い年齢層に亙り行なえるスポーツです。1人1人が自分自身の体力と相談の上で、無理をせぬようにプレー出来る、唯一のスポーツかと存じます。

しかし一端スタートをしてしまえば、それこそ人間の悲しさ、同伴者との競争意識、前後パーティーに対するマナー等を考えて、知らず知らずのうちに、無理をする事も多く、プレー終了時には、意外な高エネルギーを消費していると推定出来ます。(残念ながら不勉強でして、科学的なデータを持ち合せません。現在まで、私の目を通した、ゴルフ医学記事に、ゴルフプレー時におけるエネルギー代謝に関する記事はございませんでした。どなたかご存知の方がおいででしたらお教え下さい。)

そこでゴルフ場で提供する食事の事です、これは第一に高カロリー食の要があると考えられます。特に含水炭素と良質蛋白の補給は欠かす事が出来ません。一般に疲れているからと脂肪を多量に摂取する人が多いようですが、脂肪過多の食事は如何がかと存じます。特に中老年者の過脂肪は、健康保持上からも感心出来ません。

では具体的にどのような事となりますと、私は栄養師でも調理師でもありませんので申し上げられなくなるのですが、要は見ただけで食欲をそそり、食べておいしく、そして十分な量が望まれます。たとえば、中華の一品料理などはいかがでしょうか。総合栄養と云う点からも高カロリーと云う点からも、また味の点からも、アフタープレー食として申し分ないものの一つかと思えます。また冬の湯豆腐なども喜ばれましょう。

さて私の結論ですが、美味廉価は望みません。美味ければ高価でけっこうです。今の時代、廉価であれば不味いのはあたりまえです。吟味した材料を使い、手の込んだ調理をし、気のきいたサービスがあれば、高くてもお客は納得するでしょう。

どうせゴルフは貴族趣味な遊びです。一日位はすべてに贅沢な気分を持たせるのも商売のうちです。また、これが、こせつかない綺麗なマナーにもつながると思えます。鹿沼CCの良い点の一つに庶民的な所が数えられますが、あまり庶民的でも、クラブの品位を落すのではないのでしょうか。“素人の虚言”支配人、岡崎チーフ、御免なさい。日頃の貴方達の努力と、誠実さには感謝しています。今後とも一層の向上をお願い致します。

自 己 流



東京都品川区大井
中島 和雄

開場前に、楡木街道から入った処にあったトラックでゴム長にはきかえ、ブルドーザが造成中のコー

スを見せてもらったのが、つい先ごろかと思っていたのにもう開場十周年になった。

私が出席した開場記念式の日には雨降りであったが、コースを廻ったときは、会員になれた事が、ほんとうに嬉しかった。そのときの記念タバコのピースの空箱は、現在でも嬉しい記念として、とってあります。

現在のようにゴルフがブームにならない時代のテレビ番組で、鹿沼を訪れた金田正一氏の北1番のティショットが、グリーンオーバーしたのを見たときは、ロングヒッターとは聞いていたものの、たいへんびっくりしたのが印象に残っている。

開場当時のフェアウェイや、北12番ショートホールのグリーンわきにあった松の木などのように、アクセントをつけていた木が枯れてしまったのは、まことに残念に思われます。他のゴルフ場でも、独立している木はボールが当たるためか、よく枯れるようですが。……

当コースの入会宣伝の歌い文句であった東北縦貫道路の開通により交通の便がよく、日光男体山、筑波山など雄大な景色が360°に広がった素晴らしいゴルフ場は少ないので、メンバーになったのを誇りに思っているが、JGA、KGAに加盟していない点では肩身が狭く、早急に入会されることを期待しております。(編集者註：JGA、KGAには49年3月に正式加盟いたしました。)

わがクラブの従業員さん、キャディさんは、よく教育されており、気持よくプレーできるのはメンバーの一員として嬉しく感じます。今後とも近隣のゴルフ場の模範であることを望みます。

私は明治生れで、定年になってからゴルフを始め、コーチにもつかず、自己流でやっていますが、どうか迷惑をかけずに廻れるようになりました。一昨年5月末、北アウトは出だしがトリプルで、43だったが、どうしたことか北インでは2バーディ、1ボギーの35。トータルで80を切ったのは自己最高のスコアで、今後はないことではと思うが、自慢に思っております。

競技記録

倶楽部選手権歴代優勝者

1968年	野	沢	茂
1969年	池	田	昭
1970年	小	野 弘	睦
1971年	片	渕 俊	史
1972年	半	田 純	一
1973年	東		武
1974年	斎	藤 勝	好



理事長杯歴代優勝者

1968年	古	沢 洋	三
1969年	呉	山 昌	圭
1970年	三	光 東	仁
1971年	桜	井 勝	一
1972年	村	松 三	雄
1973年	稻	垣 彦	三郎
1974年	高	梨 豊	美



セニヤ選手権歴代優勝者

1970年	浅	見 栄	一
1971年	川	本 須 恵	男
1972年	森		二郎
1973年	川	本 須 恵	男
1974年	大	谷 三	良



昭和48年6月～49年10月 全競技優勝者

競 技 名	クラス	年.月.日	優 勝 者 名	競 技 名	クラス	年.月.日	優 勝 者 名
月 例 杯	A	48.6.17	阿 部 末 吉		C	3.24	白 石 鉄 郎
	B	〃	石 村 信 雄	理 事 長 杯		4.7	高 梨 豊 美
栃木県知事杯		48.7.8	小 山 金 弥	月 例 杯	A	4.28	桜 井 勝 一
鷺 草 杯		7.23	篠 田 正 美		B	4.21	斎 藤 泰 一 郎
月 例 杯	A	7.29	結 城 憲 昭		C	4.28	田 口 裕 紹
	B	〃	伊 豆 田 源 一 郎	鹿 沼 市 長 杯		5.5	斎 藤 泰 一 郎
船 田 杯		8.5	前 田 浩	さ つ き 杯		5.15	佐 々 木 喜 堂
サリカ記念杯		8.13	神 山 康	月 例 杯	A	5.26	戸 津 川 隆 久
月 例 杯	A	8.26	西 川 勝 夫		B	5.19	下 浦 親 之
	B	〃	山 内 守 正		C	5.26	広 川 秀 明
敬 老 杯		9.16	水 澄 正 道	月 例 杯	A	6.16	河 野 直
月 例 杯	A	9.23	阿 部 末 吉		B	6.23	鈴 木 昇
	B	〃	大 塚 潔		C	6.16	白 根 新 治
倶楽部選手権	ファースト フライト	9.23	東 武	セニア選手権		6.16	大 谷 三 良
	セコンド フライト	〃	川 田 早 苗	ミックスト・ フェア・サム		6.19	斎 藤 泰 一 郎 児 玉 良 子
開場記念杯		10.8	大 島 吉 三	栃木県知事杯		7.7	山 田 一 郎
も み じ 杯		10.22	篠 田 正 美	鷺 草 杯		7.17	佐 々 木 喜 堂
月 例 杯	A	10.28	落 合 忠 昭	月 例 杯	A	7.28	黒 崎 勉
	B	〃	田 崎 省 三		B	7.21	大 河 内 修 三
委員会競技		11.11	大 柿 七 郎		C	7.28	高 御 堂 正 男
月 例 杯	A	11.25	戸 津 川 隆 久	船 田 杯		8.4	板 垣 満
	B	〃	羽 田 野 義 雄	サリカ記念杯		8.14	舞 原 庸 夫
ラ ス ト ル 杯	A	12.2	大 塚 忠 三 郎	月 例 杯	A	8.25	佐 々 木 正 男
	B	〃	石 川 宇 一 郎		B	8.18	藤 田 新 一 郎
忘 年 杯 (平日会員)		48.12.9	片 山 定 秀		C	8.25	高 木 英 雄
忘 年 杯 (明治・大正)		12.23	井 上 忠 平	倶楽部選手権	ファースト フライト	9.22	斎 藤 勝 好
	昭和	〃	安 政 夫		セコンド フライト	9.22	篠 原 吉 一
新 年 杯 (平日会員)		49.1.3	遠 藤 博 太 郎	敬 老 の 日 杯		9.15	川 上 五 郎
新 年 杯 (平日会員)		1.8	横 山 修 三	月 例 杯	A	9.22	坂 垣 満
月 例 杯	A	1.20	金 田 昌 極		B	9.29	前 島 勲
	C	1.20	井 出 幸 作		C	9.22	佐 藤 清 高
月 例 杯	A	2.24	小 林 恵 一	月 例 杯	A	10.27	田 村 浩 保
	B	2.17	平 野 俊 夫		B	10.20	石 川 稀 一
	C	2.17	小 池 文 夫		C	10.27	渡 辺 浩 一
月 例 杯 (ソーム・ストーン)	A	3.24	河 石 晃				
	B	3.31	日 高 博 次				

開場10周年記念祝賀競技会入賞者

■49年10月12日（土）

北コース				南コース			
順位	氏名	ネット	順位	氏名	ネット		
優勝	井上博康	65.6	優勝	矢延史郎	71		
2位	水巻外吉	66	2位	吉田健	71.2		
3位	佐久間利一	66.4	3位	長島二三男	72.4		
4位	渡辺安夫	66.8	4位	桜井高市	72.4		
5位	田村要次	67.6	5位	三上欽市	72.6		

■10月13日（日）

北コース				南コース			
順位	氏名	ネット	順位	氏名	ネット		
優勝	渡辺美太郎	66.6	優勝	南部明夫	70		
2位	海老沢富雄	67.6	2位	佐藤清	71.6		
3位	手塚清	68	3位	松尾重太郎	72		
4位	春田稔	69	4位	斎藤幸一	72		
5位	原仁	70	5位	神山弘	72.2		

■10月14日（月）

北コース				南コース			
順位	氏名	ネット	順位	氏名	ネット		
優勝	高久宏雄	58	優勝	松井清	62.4		
2位	大川原富夫	64.8	2位	田村浩保	64.4		
3位	丸山謙一郎	65.2	3位	小島勝友	65		
4位	上野満夫	65.8	4位	岡安興次	65.4		
5位	堀内暉夫	66.4	5位	谷津淳吉	68		

■10月15日（火）

北コース				南コース			
順位	氏名	ネット	順位	氏名	ネット		
優勝	桜井勝一	60.8	優勝	大柿七郎	64.2		
2位	塩野正義	65	2位	岡田勝彦	66.4		
3位	高橋福太郎	65.6	3位	鈴木吉男	67.4		
4位	高橋義男	66.2	4位	斎藤栄	67.4		
5位	藤田一郎	67	5位	鈴木博	68		



■11月2日(土)

北コース

南コース

順位	氏名	ネット	順位	氏名	ネット
優勝	佐藤文彦	60	優勝	勝田優	68.2
2位	小川完治	63.8	2位	石川禎衍	69
3位	大杉弘	65.2	3位	浜田二三夫	69.2
4位	石村愛司	65.8	4位	茨城良洋	69.6
5位	古賀弘文	66.6	5位	梶山豊	70.4

■11月3日(日)

北コース

南コース

順位	氏名	ネット	順位	氏名	ネット
優勝	江川功	62	優勝	山本守	65
2位	堀越信弘	66	2位	田川清行	68.2
3位	野口清	66.6	3位	片桐象一郎	69.6
4位	大野林造	68.2	4位	阿久津信義	69.8
5位	吉田保夫	68.2	5位	福田郡司	70.0

■11月4日(月)

北コース

南コース

順位	氏名	ネット	順位	氏名	ネット
優勝	川口敏智	64.8	優勝	田口文男	71.4
2位	柴本英明	68.8	2位	倉重正夫	72.8
3位	松枝健造	69	3位	浜武治	73
4位	小池文夫	69.2	4位	石川光愛	73
5位	立石邦男	70.4	5位	秋山信雄	73.6

アンケート

- ①当倶楽部でのプレーで、最も印象深い思い出、自慢話、失敗談などお聞かせください。
- ②当倶楽部で一番好きなホール(旧番数)とその理由
- ③一番嫌いなホール(旧番数)とその理由
- ④倶楽部へのご注文がございましたら一言

(敬称略、順不同)

田谷 元佑(館林市、医師、昭12年生、ハンデ10、昭47年ひな祭杯 優勝)

- ①特になし
- ②好きなホール・北4番。距離もあり、雄大なホールだから。
- ③嫌いなホール・北16番。ミドルホールにしては短かすぎる。
- ④日、祭日の予約がむずかしい事。無記名法人がたくさん入場し、プレー中はビジターとやっている事になってしまいます。無記名法人の入場制限をするか、記名法人に変えていただきたい。

半田 純一(宇都宮市、会社専務、昭11年生、ハンデ1、昭47年クラブ選手権 優勝)

- ①昭47年度のクラブ選手権一回戦の時、小生と桜井氏(鹿沼)がプレーオフのため再び南の一番ティグラウンドに参りまして試合を続行しようとしたのですが、ビジターの方々が我々をパスさせてくれる様子がありません。色々説明したのですが、話しているうちに突如雲行きになり、やむなくキャディマスターに来てもらい、ようやく一番のティオフを終わり進行したことがありました。
- ②好きなホール・南9番。ダイナミックに打ち下し速く眺めもよく、ティーショット如何でツーオンも

可能なホール。

- ③嫌いなホール・北18番。右側から出ているOB杭と左側のラフに入り易いため、2打目のねらいが難しいホール。
- ④オープン10年、一段と充実したゴルフ場にならんがため、メンバーのメンバーによるメンバーのためのゴルフ場経営を考えてもらいたい。平日でもビジターが多いのかメンバーが多いのか。再考の余地がある。一部の経営者のためのゴルフ場でなく、あくまでもメンバーコースである事を再認識されたい。会員名簿も年一回必ず発行してほしい。

印出 昇(大宮市、銀行支店長、昭7年生、ハンデ12、昭46年月例 優勝)

- ①昭47年11月3日(文化の日)南3番のショートホールでホールインワンを記録したこと。当日は秋雨けふる雲り空で、グリーンも柔らかく、ランもないと思って、ティーを少し高くし、ダイレクトにねらって行ったが、これがスリーバウンドでホールイン。思い出深いショットです。
- ②好きなホール・北10番。少々のミスショットでもロングホールであるのでパーで収まる。

- ③嫌いなホール・北1番。持ち球がフックボールのため左のOBには再三泣かされた。
- ④クラブライフを充実したものにしてもらいたい。フロントにしても、食堂にしても、常時来場しているメンバーに対するマナーを大切に(現在はパブリックみたいである)食堂の応待の改善。テーブルについたら「おつかれさま」出て行く時は「行ってらっしゃい」の一言。

後藤 秀治(川口市、自営業、大13年生、ハンデ7、昭49年月例競技(2月)準優勝)

- ①49年の倶楽部選手権、一回戦で当たった井草氏との一戦。彼とは今まで何度かマッチプレーで斗ったが、勝った事がなく、今回も最終ホールまで、勝負を持ち込んだ。私のアプローチショットがピンそば約40cmにつき、バーディ。やっとの思いで彼に借を返したわけだが、その時のバーディーパットは現在もまだ、しびれを感じる。
- ②好きなホール・北10番。ティショットが思いきって打てるし、イーグルも二、三度出している。
- ③嫌いなホール・北4番。13番。最近ボールが飛ばなくなったのか、パーをとるのが困難。
- ④朝のスタート時間。8時スタート

が大変遅れてスタートしているようだが、8時には、プレーヤーも、キャディも、ティーグラウンド上において、すぐスタート出来る態勢にしてほしい。現在は、一組あるいは二組ぐらいの時間のロスがあるように見受けられるが……。

青木 系次〈東京都、製造販売業、昭9年生、ハンデ14、昭48年月例競技(2月)優勝〉

- ①昭46年4月の理事長杯マッチプレー。1回戦で最高のゴルフで勝ち、周囲から2回戦は楽勝相手だと聞かされ、それならばとタップリと食事をとり、あげくのはては駐車場でズボン巻き上げ、緊足になり洗車と相成った。さあて2回戦……ヤヤヤヤ……ボールはフックにスライス、チョロ、途中にてクラブハウスへお帰りなさい……今だに忘れられない失敗談である。
- ②好きなホール・北13番。のびのび打てる事と、不思議に13番あたりから調子がでる(インスタートの場合)
- ③嫌いなホール・南INの馬の背。南コースで月例時代に悪い思い出ばかり……。
- ④ネームプレートのデザインと大きさに注文あり。帽章のデザインは品ありとの声多し。

東 武〈宇都宮市、病院長、昭13年生、ハンデ5、昭48年クラブ選手権優勝〉

- ①昭48年クラブ選手権の準決勝。スタート後ショットが悪く、連続して3ダウンとなってしまいました。4番でバンカーショットがOKになり、相手の方が素晴らしいショットで2オンにもかかわらず、3パット。負けると思った試合をひろってしまっただけが目に浮かびます。
- ②好きなホール・南2番。常にボー

ルの落とし場所が見えるにもかかわらず、ミスショットは必ず罰を受け、ナイスショットのみが報いられる。

- ③嫌いなホール・北13番。絶対に2オンしません。その上グリーンのエプロンがせまい。
- ④週日にメンバーがブラッと行ってもプレー出来るようにしてほしい。午後からスタートさせないというメンバーコースはない。

安 政夫〈東京都、会社専務、昭3年生、ハンデ15、昭48年忘年杯優勝〉

- ①友達と一語のプライベートコンペ。確か、北のアウト1番でパーディを取り、得々とプレー続行していた。5番で友達の1人がドライバーをチョロ、2打の時方向がわからないというので、メンバーとして教えたつもりが全然方向違いを教え、えらくおこられた時があった。
- ②好きなホール・北1番。パーディを取ったから。
- ③嫌いなホール・北3番。なかなかパーが取れない。
- ④友達と一緒にいきたいが、なかなかスタートが取れない。メンバーの時間を取っておいて下されば有難い。

結城 憲昭〈草加市、会社役員、昭16年生、ハンデ8、昭48年月例優勝〉

- ①昭48年度クラブチャンピオン戦で予戦をプレーオフで通過し、第1回戦は3-4で第2回戦へ進出しました。その時の事を一筆。私の相手の人は東武さんでした。私は生意気にも、東さんに「32才の若僧ですが、これまで私と戦って負けた人のためにも、楽なゴルフはさせませんよ。」と、コースを歩きながら話をした事を思い出

ます。勝負は18番までつきませんでした。あの鹿沼カントリーで、だれでも知っているお宮のある北18番ホール。東さん2オン、私2オン。東さんはカップの上4.5m、私は5m。私が強引に打ったパットはカップをなめて1mオーバー。東さんは、4.5mをうまく打った。第一パット30cmショート。でも軽くパー。第2打目の私は、スライスの1m。やはり強引に打ったが、カップをなめて3パット。その瞬間、私の負けが決まったのです。東さんがチャンピオンになられてから聞いたのですが、「結城との戦いが一番苦しかった」とおっしゃっていたそうです。私のゴルフ歴4年間で一番苦しく、一番印象深く、一番楽しい思い出としてのこっております。

- ②特になし
- ③特になし
- ④メンバーのスタートについて、他のコースのメンバーに聞いたのですが、当日のメンバーのために、30分間予約をとらないとの事。メンバーのためには、とても気分がよく、当日でも気楽に行けるようになるのではないかと思います。

伊豆田 源一郎〈東京都、会社課長、昭10年生、ハンデ18、昭48年月例杯優勝〉

- ①月例杯優勝の時、南9番(最終ホール)で第三打をバンカーに入れたが、次打で30cmに寄せたこと。バンカーショットは、もともと悪くなかったが、あれ以来特に良くなった。
- ②好きなホール・北4番。このホールで自分の調子がつかめる。(ツーンまたは、ツエツエなら良好)
- ③嫌いなホール・北11番。セカンドショットが右へ流れてパーの取りにくいホール。
- ④食堂員の接客態度が、非常に悪い。

(特に男子職員)早朝でも、コーヒーのサービスぐらいいは欲しい。当番制でも、実行してもらいたい。

夷亀 道次(東京都、会社次長、昭7年生、ハンデ5、昭48年理事長杯準優勝)

- ①昭48年の理事長杯決勝で当方最悪のコンディションで試合にのぞんだ事が残念であった。昭49年9月15日の敬老の日杯に於て始めてパープレーのスコアカードを提出出来た事。
- ②好きなホール・北14番。うまくいけば2打でONできる。
- ③嫌いなホール・北12番。13番。12番ホールは、風により、その日のクラブ番数が違う。13番ホールは、大きくバンカーがガードしている。
- ④日曜日に予約をしなければならない事。また、もう少し競技を多くしたらどうか。それに出す賞品をもう少し考えたら良いのでは。コースの整備をもう少し。(相当良くはなかったけど)

落合 忠昭(上都賀郡、森林組合職員、昭11年生、ハンデ15、昭45年月例会 優勝)

- ①私の思い出は、失敗が多いのですが、一つだけ自慢があります。今でもその時の事が思い出されます。昭44年3月1日、ゴルフを始めてまもない私が、北2番180YARDにて、ホールインワンが出た事です。一生に一度あるか無い事が出来た満足感が、5年たった今もまだ残っています。
- ②好きなホール・南2番。フェアウェイが広く、気楽に行けるから。
- ③嫌いなホール・北12番。松ノ木、バンカーに眩惑されるから。

井草 茂(横浜市、金融機関支店長代理、昭8年生、ハンデ7、昭41年天皇誕生杯 優勝)

- ④メンバーが、常にスタートできるような考慮してほしい。

山内 守正(東京都、電気店経営、昭14年生、ハンデ17、昭48年月例優勝)

- ①48年あたりからだったと思う。スタートは3時半以後おことわり、という規則が出来た直後、前ホールをパーでおさめ、北1番へ来てオーナー。いさんでドライバー、ナイスショット!250~260ヤードは出た?とたん、ハウスのスピーカーより、「スタート御遠慮下さい」の声。その球を取りに行く時の足の重かった事、今でも北1番でティアップすると、その事を思い出す。
- ②好きなホール・南1番。広々とグリーンまで見渡せる気持の良さ。
- ③嫌いなホール・南の“馬の背”。とくにフェアウェイに作った仮グリーンが嫌だ。
- ④北16番。池がスタイニイで、おもしろいのだがグリーンと池の間が広すぎるため、やさしすぎる。もっと池を大きくグリーンを淵まで広げると、おもしろいと思う。また、人を多く入れすぎ、プレーがつかえるのが困る。

稲垣 彦三郎(川口市、自営業、昭3年生、ハンデ7、昭48年理事長杯優勝)

- ①49年の理事長杯1回戦でたたかった神山茂さんの事、神山さんはハンデ7。スクラッチでしたが、プレーオフ20ホールで、私はかろうじて勝つことが出来た。そのあとで、神山さんは総武カントリーのハンディ2と聞き、その人に勝つことが出来た事で自信が付き、決勝まで行くことができました。

②好きなホールは、各ロングホール。アンダーパーでホールアウト出来るような気がする。

- ③嫌いなホール・北18番。何となく嫌いだ。
- ④フロントとキャディマスター室の連絡を敏捷にしてもらいたい。

大塚 忠三郎(大宮市、会社員、昭5年生、ハンデ14、昭48年ラストホール杯 優勝)

- ①倶楽部選手権予選は毎年出ているが、落ちるのが判っていても面白く、夢中にさせるものがある。49年のドシャブリでのクラチャン予選、1Rは悪かったが雨が増すにつれてスコアがまとまり、調子がでて来たのに、1Rカットは残念、何事も気がぬけないのがゴルフだ。
- ②好きなホール・南9番打ちおろし。眺めもよくてすばらしいが、グリーンに難しさに時々いじめられる。
- ③嫌いなホール・北18番。右の神社にボール献上が多々あって、入賞を失ったことすらある。次打も難しいホールだ。
- ④平日の予約が仲々難しく、土曜日にはビジターがはいれないので同伴が出来ない点、利用面で制限を受けるのが困る。理事長杯の予選は、春の日の長い時でもあり、36ホールにしてもらいたい。

絹川 義久(東京都、医師、昭8年生、ハンデ15、昭48年月例(B) 優勝)

- ①昭46年1月の寒い日、ゴルフを始めて2カ月のころ、友人につれられコースについた。フェアウェイ一面に霜がふり、真白で、(今、思うと北の12番)こんなに美しい印象をうけたことがなかった。それ以来、鹿沼コースが、好きになった。そして、鹿沼は私のゴルフの育ての親だと思っている。
- ②好きなホール、南9番ロングホー



ル、打ちおろしの気分が良い。

③嫌いなホール・南10番、見た感じが悪い。18番との境にもう少し木を植えたらどうか。ワンパナにするよりも、バンカーでも多くして網をやめ、木を植え、18番に落ちたのはOBにした方が良い。

④北16番ホール、改造後、池を作ったりしているが、ヤーデージが短かいし、中途半端な池で、もう少し大きくするか、大きなバンカーをグリーンのまわりに作ったらどうか？

また各ホールともティーグラウンドを大きくしてほしい。

中村 浩治〈浦和市、会社員、昭11年生、ハンデ7、昭48年倶楽部選手権 準優勝〉

①昭48年度倶楽部選手権準決勝で35ホール終わり、イーブンで、36ホール目（北18番ホール）に1アップした時。セカンド155ヤード、5番アイアンでオン、相手は、150ヤードを左バンカーに入れ、第3打グリーンオーバー、第4打で手前ラフ、ここでOKをもらう。

②好きなホール、北1番。昭48年度倶楽部選手権で1回戦自分がOBして1アップ。第2回戦自分がOBして引分け。

③嫌いなホール・南8番、グリーン

がむづかしい。セカンドで左にひっかけやすい。

川本 須恵男〈東京都、自営業、明35年生、ハンデ7、昭46年、昭48年セニヤ選手権優勝〉

④分科委員会初代会合初顔合せ会に、招待してもらいたい。スタート時間を守ってほしい。

東京事務所にスタート予約専用の電話がたくさんほしい。

坪子 都志郎〈鹿沼市、会社役員、昭12年生、ハンデ21、昭47年B新年杯 優勝〉

①北6番のショートコースでの事ですが、ティショットがトップして、池に落ちたと思ったボールが、そのまま水の上をハネて行ってところとグリーンにオン、なんとバーディーを取り、仲間にひやかされた思い出があります。

②好きなホール・南9番。ティグラウンドから見た景色の良さと、男体山に向かって打つティショットが何ともいえない魅力。

③嫌いなホール・北12番。一見やさしいようで怪我が大きい。

④バンカーに砂が少ないのではないかな。また、食堂のメニューに日本



そば等を加えてもらえないか。

早川 良男〈小山市、会社役員、昭8年生、ハンデ16、昭46年ラストボール杯 優勝〉

①昭47年の理事長杯で生まれて初めてホールマッチプレーを経験した。その時まで、ゴルフとはとても楽しいものと考えていたが、このように苦しいゲームは他にないだろうと思うようになった。

テレビで観戦しながら、プロの偉大さをつくづく思う。

②好きなホール・南アウト最終ホール。

③嫌いなホール・南イン馬の背コース、OBの心配が絶大。

④客が多いためだろうか、メンバーの我々に対してもう少し誠意があってよい。メンバー優先をもう少し考えるべきだろう。

前田 浩〈東京都、会社役員、大9年生、ハンデ12、昭48年船田杯 優勝〉

①48年は身を入れて練習したせいか好調だった。

夏の船田杯で、黒板に出た記録では、上位の人がおり、まあ2、3位に入ればよいと思ったら、失格者がいたので繰上げ優勝となった。しかし、ハンディが3つも上ったので、それ以来どのコンペでも優勝のチャンスがない。

②好きなホール、特にないが、北10番、南2番等、バーディーが出やすい。

③嫌いなホール・南7番。ロングヒッターならいざ知らず、とてもワンオン出来る距離ではない。まだパーは一回のみ。

④パーキングスペース不足。予約方法の改善。

(皆様のご意見に対する倶楽部の回答はスペースの都合で57ページに掲載いたしました。)

神社考



(株)鹿沼カントリー倶楽部
専務取締役

鈴木 修

当ゴルフ場の内外に神社が4社あるので、この号では、これについて述べてみよう。

南8番グリーンの奥の林に、国土地理院管理の三角点の標石があることは、あまり知られていない。

ここは、標高138.9mで、コースの最高地である。この定礎のそばに大杉神社を祀った石の祠がある。祭神は大物主命である。痘瘡よけの神(あんば様)で、常陸阿波の大杉大明神から勧請したものである。

近世初頭から民間信仰の基盤にのった祈願対象の祭が2月、7月の17日に行なわれた。「疫をはらってあんばア大杉大明神」と唱え、天狗の面をかぶり、鋒をもった者を先導に、お囃子がこれに続き、各戸をめぐって、痘瘡が入らぬよう祈願して歩いた。

昭和初期までこの祭礼はあったが、いまは神社へ詣でるだけで、当番坪内の人たちが日待ちの祝宴を催すのみとなった。当倶楽部へもコース内鎮座のため、毎年2回神符の上に赤飯をのせ、ご神酒を持参して訪ねてくれる。誠に心あたたまる好意に感謝している。

近隣でも大体同じような祭であるが、どこの町内でも大杉神社は石の祠が多く、大きな社は少ない。農休を兼ねた祭が次第に簡略化されているのは、いずこも同じである。

黄金コース9番ホール北の老木の中にも愛宕神社がある。祭神は火の神刺遇突智命で、創立年月は不明だが、寛海法師勧請とされている。往古は太郎坊愛宕山大権現と申し、徳川家代々の崇敬社として10石の朱印を賜ったとある。別当には普門院をおき奉

仕させたという、藤江町の鎮守さまである。古木の紅葉はコース随一の声が高い。

また、北コース5番ティーグラウンドの右側の森の中に、池の森鎮守日吉神社がある。祭神は大山彦命で、社伝によれば寛正2年(1461)創建である。往古より正一位山王大権現と号した。

ここには巨大な金精神がある。金精信仰と道祖神信仰の結びつきは、その土地によって違った解釈をしているが、外部からの悪神、疫病などの侵入を防ぐという意味で、道筋に建てられたものが多い。崇高なるものとして男性器の形のものが目立つ。安産、子供のすこやかな成長、旅行者の安全、家内安全等を祈願したものである。

この神社鎮座の神は、明治44年1月31日に道祖神社として合祀したものであって、もとは「道ろく神」という地名のところがあるので、その辺に祀られてあったものと思う。

いずれにしても、道祖神と金精神は一体の神として、信仰の対象になったのは事実である。一度は参詣して拝観することをおすすめしたい。

最後に北コース18番右側に鳥居の見える社について述べる。

O B線を越えると、「お宮詣りだ」となげくのを聞くことがある。このお宮は鶴飼神社である。江戸時代の明和5年(1768)建立で、代官鶴飼左十郎を祀った生祠である。祭神が在世中に祭って神社を建立したものを生祠という。



北コース18番右の鶴飼神社

鶴飼代官は明和2年（1765）8月から同8年まで、鹿沼市外10村の天領の代官で、5か年余り行政に携った人である。

藤江村はそれ以前は壬生領で、三浦肥後守の支配であったころ、西部黒川沿岸の川原35町4反の開墾を命ぜられたが、荒れ地であり、年貢は納められず、村全体の嘆願も入れられぬまますぎたが、なおそれに増して、ゴルフ場西部の原野54町6反の開墾を新たに命じられ、加重の苦難により当時110戸の大村が61戸に減じて、潰れ百姓、逃亡者が続出した。

この苦境による減免措置を訴えた村役人は入獄、戸閉め、百姓へは過料と、実に絶望のどん底に落ち込んでしまった。

その後幕府領となり、赴任して来たのが代官鶴飼氏であった。

差し出された嘆願書を見て驚き、つぶさに見分しその苛酷な年貢徴収を官に上申して減免の措置を講じた。その嘆願書の写しが現存しているが、原文は長いので省略する。

村民がいかに鶴飼代官を生き神様として崇敬したかは、想像に難くない。彼がとった措置は、職務柄当時としては、有利なことではないのであるが、それを承知しながらあえて減税策をとったところに、この代官の面目がある。

鶴飼氏は代官任命前に幕藩御評定所公事訴訟取捌役に寛保2年（1742）4月ごろ勤めていたことは記録にあるが、退官後の動向は調査したが、判明していない。

かつて全村滅亡の危機を救済した例は、枚挙にいとまないが、他方年貢の増収のために、農民の困窮はエスカレートして逃亡者が出る状態であった。そのため本百姓の勢力ある者や在郷商人が、生活資金の貸付を行なって、共済的役割を果たした。

しかし、苛酷な貢租で圧迫されていた農民層は、貨幣経済の浸透するにつれて、まず、小作農（水呑百姓）より分解し、貧農の土地を彼等は兼併してゆく経路をたどるほかなかった。これが武士や幕藩経済の窮乏の原因となったという。

神社に祭られたのちに、祭神の鶴飼氏本人が参詣して「わしも神さまになっては、もう先がないなあ」と村人に語ったと、言い伝えられている。

コース造成時、南18番ホールに、鶴飼社境内の一部がかかるため、西側隣接山林と社殿を新築して同社へ寄進し、ここへ遷宮すること、また、新旧境内を倶楽部が借地することで、藤江町と話し合いが済み、昭和39年9月20日の例祭日に遷宮した。

元宇都宮大学教授大島延次郎博士に依頼して由緒撰の掲額をあげたのも、この時であった。すべて倶楽部が経費を負担して行なった。

以上の4社へは毎年祭典費の一部を寄付し、敬神のまごころを表している。今後とも忘れずに、ゴルフ場の守護神として、崇敬してゆきたいものだ。

開場10周年を迎え、感慨を新たにして、神社考の一文を記した。

（つづく）

倶楽部だより

■「鹿沼グループ会員サービスセンター」開設のお知らせ

すでにご案内の通り、鹿沼グループでは、会員の皆様に対するサービスをさらに向上させることを目的として「鹿沼グループ会員サービスセンター」を開設いたしました。

今後は当センターが鹿沼グループ各ゴルフ場（鹿沼カントリー倶楽部・鹿沼72カントリークラブ・富士御殿場ゴルフ倶楽部・サリカカントリークラブ）のスタート予約およびロッジ予約の申込み、名義書換え等に関するお問合せをお受けいたしますほか、会報等の発行を通じて会員の皆様との意思疎通、親睦を図っていききたいと考えておりますので、何卒よろしくご了承の上、大いにご利用くださいますようお願い申し上げます。なお、鹿沼カントリー倶楽部の土、日、祝日のスタート予約につきましては、当センターが全45ホールにつ

いて、またロッジの予約は引き続き当センターにてお受けいたしておりますのでよろしくお願い申し上げます。（倶楽部競技の予約はゴルフ場のみにてお受け致します。）

また、平日（月～金曜）のスタート予約につきましては会員サービスセンターとゴルフ場の双方にてお受けいたします。

最近スタート時刻が遅れがちになり皆様大変ご迷惑をおかけしております。ゴルフ場へは少くとも20分前のご到着下さるよう、皆様のご協力をお願い申し上げます。

鹿沼グループ会員サービスセンター

〒104 東京都中央区京橋2-3-16 鹿沼ビル1階

（スタート・ロッジの予約） 03 (563) 1891(代)
電話
（名義書換えその他） 03 (563) 2281(代)

■土・日・祝日ビジター入場について

すでにご通知申し上げましたが、49年12月1日(日)より、下記規定にて、土・日・祝日のビジター入場を認めております。

記

1. 各日50名以内 1. メンバー同伴に限る。

1. ビジター・フィ 土曜日 8,000円 日曜・祝日 10,000円

土、日、祝日にプレーされるビジターの予約手続きは下記の通りです。

1. スタート予約は、東京の会員サービスセンターにて受

付けます。（11日前より）

1. スタート予約後三日以内に予約金 3,000円（ビジター・フィ内金）を会員サービスセンターまたはゴルフ場フロントにお収め下さい。予約金と引換えにビジターズカードをお渡します。
予約取消の場合は必ずプレー日の3日前までに会員サービスセンター又はゴルフ場に御連絡願います。その後のキャンセルの場合は予約金はお返し出来ません。（予約金の返済については1週間以内にビジターズカードと引換えに会員サービスセンター又はゴルフ場にて御返金致します。）

■10周年を記念して永年勤続者を表彰

49年10月10日の開場10周年記念式典で、当倶楽部の永年勤続者が表彰を受けました。いずれも倶楽部の発展に大いに尽力のあった方々で、今後のますますの活躍が期待されます。

10ヶ年勤続者

所属	役職	氏名
総務	主任	福田 道子
		田中 キヨ
営繕	係長	落合 清一
〃		岩本 ウメ

営繕		早乙女 マサ
マスター室	主任	松田 和江
マスター室	主任	築田 富士子
食堂		大塚 シマ
〃		荒川 ナカ
〃		石川 さよ
管理	課長	安生 弘好
管理	係長	桐生 新次郎
管理	主任	石塚 高明
管理	係長	高村 三幸
		大塚 敬一

建設	課長	高橋平八郎
建設	課長補佐	篠原一男
	(囑託)	善林修三
	(転籍者)	齊藤政市
		大塚至
キャディ		山関マサエ
〃		安生徳子
〃		臼井フサ
〃		渡辺フシ
〃		岩本静枝
〃		小籠マサ
〃		金塚キミ
〃		益子ハツエ
〃		福田ハツツ
〃		善林クニ
〃		斎藤信子
〃		伊藤イチ

コース管理常用者	石川トヨ
〃	斎藤カツ
〃	金剛地ツギ
〃	瓦井キイ
〃	田中ヨネ
〃	田中アキ子
〃	中荒井トモ

5ヶ年勤続者

所属	役職	氏名
フロント	課長補佐	善林茂
キャディ		中村カネ
〃		谷越ヨネ子
〃		古川絹江
〃		葦葉モト
〃		寺内キク子
〃		菊地豊子
〃		斎藤トシヨ

■アンケートを読んで

鹿沼カントリー倶楽部 支配人 八木 皖二

会員の皆様よりお寄せいただきました数々のご意見と注文を読ませていただき、まず感じましたのは、皆様が当倶楽部を自分の「庭」として、また「応接間」として見、その健全なる発展を心から望まれて

いるという事です。私共といたしましては皆様のご意見に謙虚に耳を傾け、時間を要する問題もありますが、鋭意、前向きな姿勢で倶楽部の改善に取り組んでいきたいと考えております。ご協力のほどよろしくお願い申し上げます。

1. スタート予約受付

49年11月に「鹿沼グループ会員サービスセンター」を新設しました。スタート予約の円滑なる受付をはじめ、名義貸換え、会報の発行等、会員の皆様との意思疎通を一層密に図る所存ですので、お気軽にご利用くださいますようお願い申し上げます。また、12月よりは、既にご案内のように、土、日、祝日にも限定でビジターの入場を認めることになりましたので、よろしくお願い致します。

2. 無記名法人会員について

漸次、記名法人会員へ移行いたしております。

3. スタート時間について

これまで予約時間よりスタートが遅れることが多く、お客様に大変ご迷惑をお掛けしましたが、50年4月4日より玄関横にキャディマスター室を移転し、コース別にバック置場を設置して、スムーズにスタート出来るよう配慮いたしました。なお、マスター室移転に伴

い、フロントとキャディマスター室の連絡も一層敏速になりました。

4. 食堂について

49年11月より、食堂関係の従業員を増員し、午前8時より午後6時まで営業いたしております。また、午後3時よりは「手打そば」も用意いたしております。更に、従業員の接客マナーも朝夕のミーティングで反省し、努力いたしております。

5. フロントについて

朝夕の混雑時の応待及び、機能的事務処理方法についても、漸次、改善いたします。

6. 施設

バンカー砂については、49年12月末現在、全コース補充完了いたしました。今後も、コース整備には万全を期す所存です。

駐車場は、12月に拡張工事が完了し、200台収容可能となりました。

鹿沼カントリー倶楽部理事会

理事 長 鮎 田 昇 平	理 事 戸 栗 亨	理 事 高 柳 実
理 事 大 谷 三 良	理 事 松 本 強	
理 事 鈴 木 恒 治	理 事 加 賀 田 功 幸	監 事 野 住 昌 孝
理 事 田 沢 義 明	理 事 八 橋 健 二 郎	監 事 郡 司 雄 一 郎
理 事 阿 部 文 治	理 事 柿 木 孝 一 郎	

分 科 委 員 会

●財務委員会

(長) 鮎 田 昇 平	<理事長兼務>
(副) 飯 田 昌 雄	西 村 江 市
高 崎 富 夫	上 野 修 二 郎
塩 山 渡 靖	遠 藤 靖 靖

●競技委員会

(長) 大 谷 三 良	(長) 鈴 木 恒 治
(副) 桜 井 勝 一	(副) 大 西 清 次
後 藤 秀 治	小 泉 清 見
西 川 勝 夫	六 角 梨 豊
河 石 晃 三 郎	高 菊 池 忠
稻 垣 彦 三 郎	落 合 忠 昭
松 田 専 一	
谷 津 潤 二	
江 田 一 二	

●グリーン委員会

(長) 鈴 木 恒 治	(長) 鈴 木 恒 治
(副) 大 西 清 次	(副) 大 西 清 次
小 泉 清 見	小 泉 清 見
六 角 梨 豊	六 角 梨 豊
高 菊 池 忠	高 菊 池 忠
落 合 忠 昭	落 合 忠 昭

●パブリケーション委員会

(長) 田 沢 義 明	(長) 阿 部 文 治
(副) 大 谷 操	(副) 大 塚 善 男
星 野 一 夫	青 柳 三 木
上 原 大 三	戸 塚 健 良
中 島 和 雄	石 河 良 三
伊 矢 野 誠 一 郎	岩 間 三 兼
新 島 剛 郎	星 野 兼 雄
亀 田 好 次 郎	

●ハウス委員会

(長) 阿 部 文 治	(長) 戸 栗 亨
(副) 大 塚 善 男	(副) 阿 部 博 国
青 柳 三 木	鈴 木 博 俊
戸 塚 健 良	松 木 原 一 郎
石 河 良 三	田 上 達 樹
岩 間 三 兼	小 瀬 廣 一
星 野 兼 雄	大 貫 寿 一

●ルール・エチケット委員会

(長) 戸 栗 亨	(長) 戸 栗 亨
(副) 阿 部 博 国	(副) 阿 部 博 国
鈴 木 博 俊	鈴 木 博 俊
松 木 原 一 郎	松 木 原 一 郎
田 上 達 樹	田 上 達 樹
小 瀬 廣 一	小 瀬 廣 一
大 貫 寿 一	大 貫 寿 一

●プロ・キャディ委員会

(長) 松 本 彌 清	(長) 加 賀 田 功 幸
(副) 桜 井 博 博	(副) 米 田 政 賢
武 井 久 雄	伊 藤 藤 田
田 中 久 雄	橋 田 水 喜
川 本 寿 恵 男	清 水 喜 一
白 土 肇 次	小 山 平 隆
爽 龜 道 次	古 沢 隆

●食堂委員会

(長) 加 賀 田 功 幸	(長) 加 賀 田 功 幸
(副) 米 田 政 賢	(副) 米 田 政 賢
伊 藤 藤 田	伊 藤 藤 田
橋 田 水 喜	橋 田 水 喜
清 水 喜 一	清 水 喜 一
小 山 平 隆	小 山 平 隆
古 沢 隆	古 沢 隆

●建設委員会

(長) 八 橋 健 二 郎	(長) 八 橋 健 二 郎
(副) 福 山 正 道	(副) 福 山 正 道
橋 本 吉 夫	橋 本 吉 夫
田 村 角 十 郎	田 村 角 十 郎
杉 山 敬 三	杉 山 敬 三
村 松 一 彦	村 松 一 彦
石 沢 一 彦	石 沢 一 彦

●ハンディキャップ委員会

(長) 柿 木 孝 一 郎	(長) 高 柳 実 介
(副) 増 田 栄 一 美	(副) 小 松 雄 介
中 津 晴 七 郎	落 合 芳 男
大 柿 七 郎	上 沢 良 平
守 重 静 雄	中 村 亮 吉
森 重 二 郎	駒 橋 亮 司
荻 村 隆 隆	野 積 晟

●フェロウシップ委員会

(長) 高 柳 実 介	(長) 高 柳 実 介
(副) 小 松 雄 介	(副) 小 松 雄 介
落 合 芳 男	落 合 芳 男
上 沢 良 平	上 沢 良 平
中 村 亮 吉	中 村 亮 吉
駒 橋 亮 司	駒 橋 亮 司
野 積 晟	野 積 晟

鹿沼カントリー倶楽部

顧問	藤松正憲	(株式会社足利銀行代表取締役会長)
	船田中	(現衆議院議員、元衆議院議長)
	小平久雄	(現衆議院議員、元労働大臣)
	小池嘉子	(宇都宮市長)
	古沢俊一	(鹿沼市長)
	大場武	
理事長	鮎田昇平	(足利不動産株式会社代表取締役社長 株式会社足利銀行取締役)

株式会社 鹿沼カントリー倶楽部

役員	取締役会長	柳田誠二郎	(日本航空株式会社相談役)
	代表取締役社長	福島充	
	代表取締役副社長	福島文雄	
	取締役	鮎田昇平	
	専務取締役	鈴木修	
	専務取締役	市田信	
	常務取締役	相原光良	
	取締役支配人	八木院二	
	取締役	福島章夫	
	監査役	保坂治雄	(公認会計士)
	監査役	飯島健児	(大七証券株式会社投資顧問)

〈編集後記〉

予定より若干遅れましたが、鹿沼カントリー倶楽部〈開場10周年記念誌〉をお届けします。10周年記念にふさわしいものを創りたいと意欲ばかりが先走って、拙い編集になってしまいました。発行が遅れましたこととあわせて深くお詫び申し上げます。

会員各位と会社との意思疎通を円滑にし、倶楽部発展の一助となる—これが会報発行の主目的かと存じます。その意味で本誌では、会員各位の倶楽部に対するご希望、ご意見をできるだけ多く盛り込むよう配慮いたしました。

9 ホールの増設、クラブハウスの増改築とますます充実する鹿沼カントリー倶楽部ですが、今後も10年の伝統に甘えず、お互いに忌憚のない意見をぶつけあい力を合わせて、よりいっそうの発展を期したいものです。

45H 鹿沼カントリー倶楽部

〈開場10周年記念誌〉

昭和50年3月10日 印刷

昭和50年4月1日 発行

発行所 **株式会社 鹿沼カントリー倶楽部**

本 社 栃木県鹿沼市藤江町1545-2
ゴルフ場 電話 (028975) 2131 (代)
東京事務所 東京都中央区京橋2-3-16 鹿沼ビル
会員サービスセンター 電話 03 (563) 1891 (スタート予約)
03 (563) 2281 (会員課)

発行人 鈴木 修

編集責任者 田沢 義明

印刷所 東漫美術印刷

東京都品川区小山1丁目4番29号

電話 03 (783) 7837 (代)

